

平成28年度

岩手県立博物館
年報

平成 28 年度博物館年報

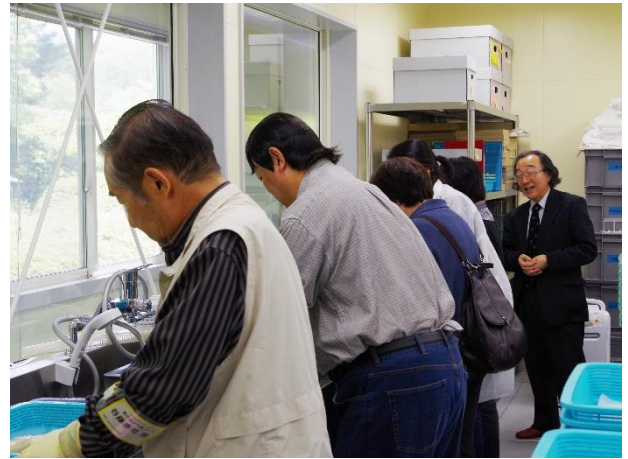


特別展「スポーツ博覧会いわて」
巡回展「秩父宮記念スポーツ博物館岩手」開会式
平成28年9月22日(木)

目で見る岩手県立博物館この1年



特別展「近代へのとびら—大島高任の挑戦—」
たたら製鉄実演平成28年5月5日(木・祝)



国際博物館の日記念バックヤードツアー 文化財
レスキューコース 平成28年5月15日(日)



第67回企画展「国立科学博物館・コラボミュージアム in 盛岡 古生代の大量絶滅と回復—進化の影と光—」展示解説会 平成28年8月1日(月)



ナイトミュージアムの初実施
平成28年8月11日(木・祝)



博物館館園実習 民家にて
平成28年8月20日(土)



考古学セミナー現地研修会
平成28年9月17日(土)



「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展-2020年
東京オリンピック・パラリンピックがやってくる-」
平成28年9月22日(木・祝)～11月27日(日)



博物館まつりのにぎわい
平成28年10月16日(日)



特別展「スポーツ博覧会いわて」なぎなた実演
(盛岡第二高等学校) 平成28年11月19日(土)



テーマ展「大津波と三陸の生き物」展示解説会
平成29年1月28日(土)



県立平館高等学校との連携プロジェクト
完成披露・引渡式 平成29年2月14日(火)



テーマ展「19世紀岩手の風景」展示解説会
平成29年3月20日(月・祝)

目次

目で見る岩手県立博物館この1年

目次

1. 沿革	- 1 -
2. 施設の概要	- 3 -
(1) 建築の概要	- 3 -
(2) 配置図・展示室等平面図	- 3 -
(3) 各室面積表	- 4 -
3. 博物館協議会	- 5 -
4. 予算	- 5 -
5. 事業の概要	- 6 -
(1) 展示活動	- 6 -
(2) 教育普及活動	- 16 -
(3) 調査研究活動	- 33 -
(4) 資料収集保管活動	- 42 -
(5) 総務企画調整	- 50 -
6. 文化財レスキュー活動	- 55 -
(1) はじめに	- 55 -
(2) 安定化処理の現状	- 55 -
(3) 処理が終了した資料の経過観察	- 57 -
(4) 確立した安定化処理技術の共有	- 57 -
(5) 次年度以降の課題	- 58 -
7. 岩手県立博物館友の会	- 59 -
(1) 概要	- 59 -
(2) 会員数	- 59 -
(3) 主催事業	- 59 -
8. 博物館利用者入館状況	- 62 -
9. 平成28年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織	- 64 -
10. 岩手県立博物館使命書	- 65 -
11. 関係条例・規則等	- 66 -

1. 沿革

昭和 48 年	4 月	県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
昭和 48 年	5 月	県庁内に、副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
	昭和 48 年	6 月 博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
昭和 48 年	7 月	民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
昭和 48 年	8 月	展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
昭和 49 年	4 月	県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
昭和 50 年	5 月	博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
昭和 51 年	1 月	県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
昭和 51 年	10 月	建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
昭和 52 年	4 月	博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
昭和 53 年	6 月	起工式
昭和 53 年	10 月	展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
昭和 54 年	11 月	定礎式
昭和 55 年	7 月	博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
昭和 55 年	7 月	コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館設置
昭和 55 年	10 月	落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館開館（5 日）
昭和 55 年	10 月	日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
昭和 56 年	3 月	第 1 回岩手県立博物館協議会開催
昭和 59 年	10 月	皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
昭和 60 年	4 月	財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
昭和 62 年	5 月	入館者 100 万人を突破（1 日）
平成 元年	3 月	地質総合展示室改修完了
平成 2 年	5 月	岩手県立博物館友の会設立（1 日）
平成 2 年	7 月	歴史古代展示室改修完了
平成 2 年	10 月	開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
平成 3 年	2 月	入館者、県民人口を超える（14 日）
平成 3 年	11 月	入館者、150 万人を達成（1 日）
平成 3 年	12 月	歴史中世展示室改修完了
平成 4 年	1 月	コンパニオンを「解説員」に改称
平成 5 年	2 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
平成 5 年	3 月	現勢展示室イヌワシの山改修完了
平成 5 年	10 月	国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
平成 5 年	10 月	皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
平成 6 年	1 月	「中尊寺黄金秘宝展」開催
平成 6 年	12 月	屋上改修工事完了
平成 9 年	12 月	文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
平成 8 年	4 月	重要文化財勸告出品館となる
平成 9 年	2 月	重要文化財公開承認施設となる
平成 9 年	7 月	入館者、200 万人を達成（16 日）
平成 10 年	1 月	ハイビジョン室設置
平成 12 年	3 月	収蔵庫等改修工事完了
平成 12 年	3 月	企画展第 50 回目を迎える（「岩手の経塚」）
平成 12 年	10 月	開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成 13 年	5 月	近代美術展示閉鎖（美術館へ移管）
平成 14 年	3 月	マメンキサウルス（モシリユウ）全身骨格複製標本展示
平成 18 年	4 月	施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。（財）岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
平成 21 年	1 月	入館者、250 万人を達成（10 日）
平成 21 年	4 月	（財）岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
平成 22 年	1 月	外部階段改修工事完了

平成 22 年 10 月 開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催
平成 23 年 3 月 美化事業完了
平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)
平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)
平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)
平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m²、延床面積 230.44 m²)
平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)
平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催
平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了
平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理 (屋根) 工事完了
平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置

2. 施設の概要

(1) 建築の概要

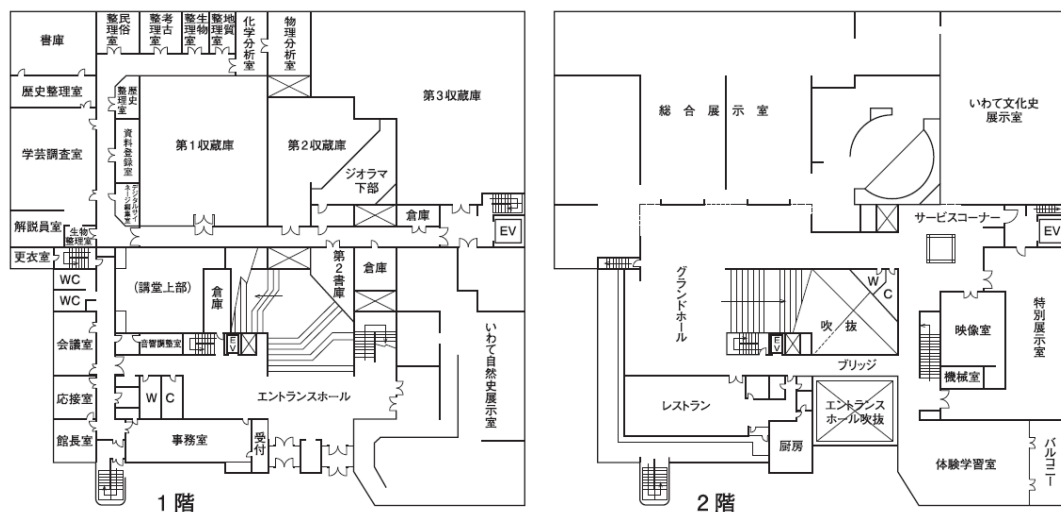
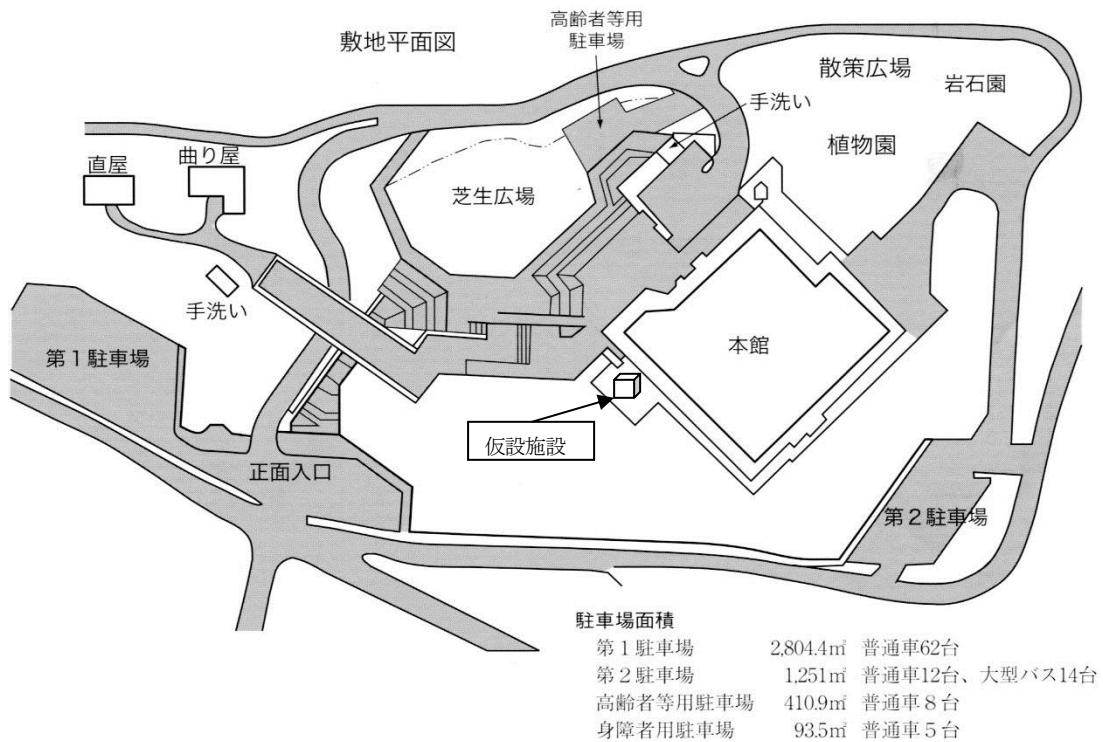
〈総工事費〉 44億3,000万円

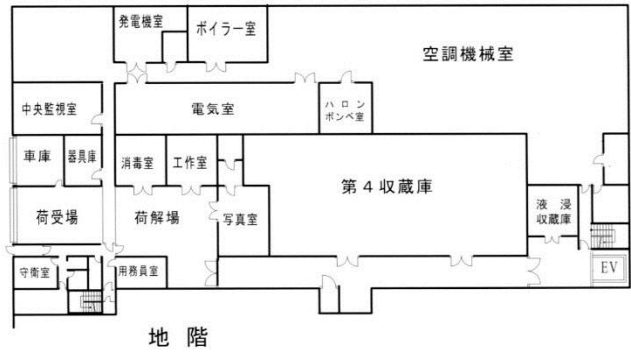
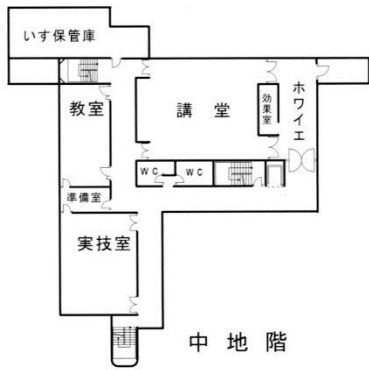
〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

※仮設施設の面積等は含んでいない

(2) 配置図・展示室等平面図





(3) 各室面積表

部屋名	面積(m ²)
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンベ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フオークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積(m ²)
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3便所	43.85
No.2便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ編集室	20.72
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積(m ²)
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民の暮らし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
2階 映像室	124.00
No.4便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋 搭屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 m²
- 収蔵庫面積 1,665.98 m²
- 学芸調査室 236.04 m²
- 研究室 274.91 m²

3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成28年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成29年1月24日（火）

場所：岩手県立博物館会議室

- 協議事項 ・平成27年度博物館協議会の意見等への対応状況について
- ・平成28年度博物館事業実施状況について
 - ・平成29年度博物館事業計画（案）について
 - ・運営全般について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成29年6月22日まで）（平成28年10月1日現在）

氏名	職	分野
高橋 眞司	盛岡市立松園小学校長	学校教育 県小学校長会
高橋 清之	盛岡市立下橋中学校長	学校教育 県中学校長会
高橋 隆	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大沢 りつ子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
畠山 克明	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
遠藤 健悦	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
前田 千香子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
鈴木 多聞	㈱岩手日報社編集局整理部次長	学識経験者
名越 利幸	岩手大学教授（附属中学校長）	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学教授	学識経験者
飯坂 真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
沼里 由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

4. 予算

（単位：千円）

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
管理運営費	179,923	177,931	174,216	175,957	170,462			
総務企画調整費					5,243	3,759	4,172	3,945
展示活動費	17,227	16,120	13,372	17,775	11,673	10,074	7,090	10,826
資料収集保管活動費	41,866	43,020	41,262	40,659	40,319	29,894	27,599	21,846
調査研究活動費	4,012	4,012	4,487	4,811	7,273	7,326	7,585	7,276
教育普及活動費	4,504	4,888	5,465	5,450	1,987	1,633	1,683	1,798
業務管理費						37,699	34,282	34,155
指定管理者事業費						127,861	130,034	129,269
計	247,532	245,971	238,802	244,652	236,957	218,246	212,445	209,115
項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
総務企画調整費	3,782	5,317	4,471	3,984	3,807	3,442	3,882	3,401
展示活動費	8,115	3,949	7,443	6,619	6,811	7,589	9,686	11,321
資料収集保管活動費	21,983	22,817	20,911	21,109	21,446	19,911	20,086	18,304
調査研究活動費	7,304	7,556	6,921	6,703	6,611	5,956	4,986	3,438
教育普及活動費	1,558	1,616	1,664	1,770	1,515	1,295	1,275	444
業務管理費	33,251	32,439	32,122	32,529	33,880	35,950	36,277	34,449
指定管理者事業費	132,832	131,395	132,600	130,502	130,401	133,050	132,345	134,279
計	208,825	205,089	206,132	203,216	204,471	207,193	208,537	205,636

※ 1 職員の人件費を除く

2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。

3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。

4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

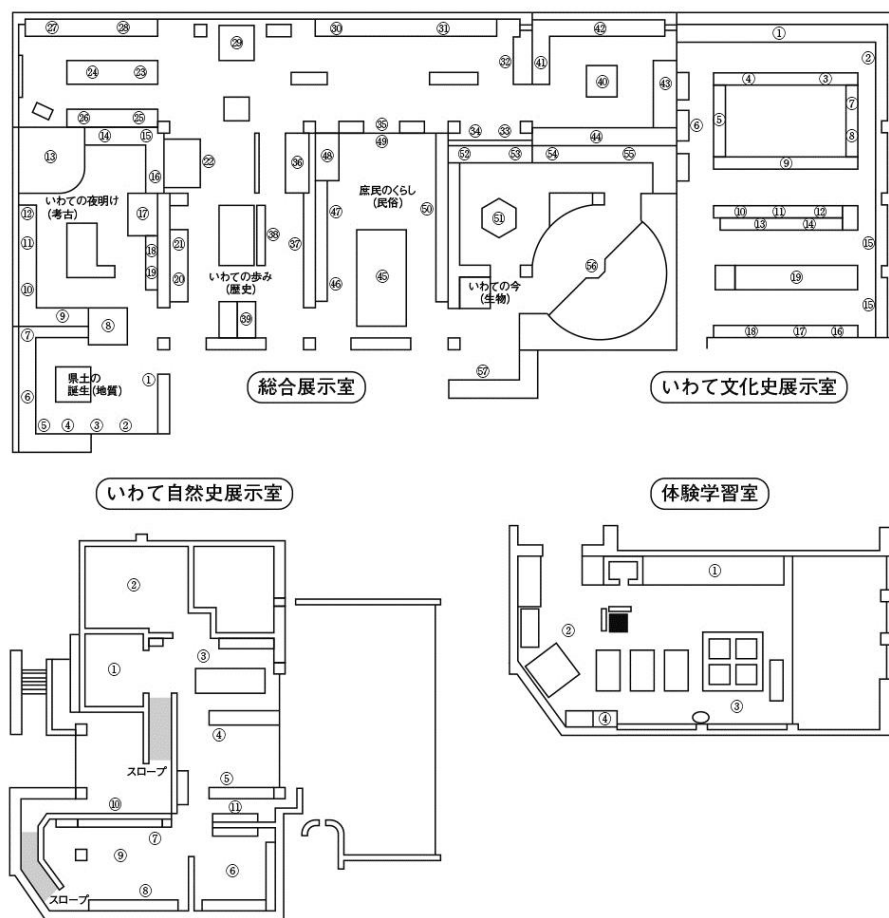
5. 事業の概要

(1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集してきた資料、及び入手が困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきた。平成 28 年度（2017 年 3 月 20 日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、288,103 点にのぼる。その中で、常設展示として展示されているものはわずか 2,000 点程度に過ぎず、残りは収蔵庫に保管されている。収蔵庫保管資料については、季節や年中行事にあわせた展示替えの際に活用されている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門に関連する展示資料が、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する展示資料が、いわて自然史展示室には地質・生物など自然史に関するより専門的な資料が展示され、充実した展示内容となっている。

平成 28 年度は、企画展「古生代の大量絶滅と回復 - 進化の影と光 -」／県内巡回展・国立科学博物館コラボミュージアム「古生代の大量絶滅と回復」、特別展「近代へのとびら - 大島高任の挑戦 -」、 「スポーツ博覧会いわて」／巡回展「秩父宮記念スポーツ博物館」、テーマ展「大津波と三陸の生き物」、「絵画でたどる 19 世紀岩手の風景」などを開催した。また、岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センター・県立美術館等との合同移動展を久慈市で開催した。



展示室配置図

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜蹴毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

総合展示室

- 県土の誕生(地質)
 - 1 県土のおいたち
 - (1) 東北地方の地下断面
 - (2) 気仙隕石
 - (3) 岩手県の地質と岩石
 - 2 いわたの古生物相の変遷
 - (4) 生命史以前
 - (5) 古生代の生きもの
 - (6) 中生代の生きもの
 - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
 - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
 - 3 旧石器時代
 - (9) 氷河期の人びと
 - 4 土器の時代
 - (10) 岩手の縄文土器
 - (11) 貝塚の形成
 - (12) 埋葬と装飾品
 - (13) 縄文人の暮らし
 - (14) 大洞文化
 - 5 稲作を始めた時代
 - (15) 弥生文化と岩手
 - 6 古墳を築いた時代
 - (16) 拓かれる北上平野
 - (17) 群集墳
 - (18) 集落と住居
 - (19) 生産技術の変革
 - いわたの歩み(歴史)
 - 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
 - (20) 古代の城柵
 - (21) 安倍氏の台頭
 - (22) 奥州平泉とその文化
 - 8 戦乱の時代とその文化(中世)
 - (23) 文治五年奥州合戦
 - (24) 豪族たちの動きと庶民
 - (25) 新しい仏教文化
 - (26) 九戸政実の乱
 - 9 藩制時代の人々(近世)
 - (27) 藩政の確立
 - (28) 凶作と一揆
 - (29) 盛岡城と町づくり
 - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
 - (32) 街道と舟運
 - (33) 藩学と寺子屋
 - (34) 先駆者たち
 - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
 - (36) 生活の洋風化
 - (37) 岩手県の誕生
 - (38) 明治時代から大正時代へ
 - (39) 太平洋戦争
 - 11 古美術
 - (40) 鐺
 - (41) 絵画・工芸
 - (42) 刀剣
 - (43) 絵画・工芸
 - (44) 絵画
 - 庶民の暮らし(民俗)
 - 12 家の暮らし
 - (45) いろり
 - (46) 正月の行事
 - (47) 庶民の信仰
 - 13 働く人びと
 - (48) 農村の人びと
 - (49) 漁村の人びと
 - (50) 山村の人びと
 - 14 まつりと芸能
 - いわたの今(現勢・生物)
 - 15 わたしたちの郷土いわた
 - (51) 岩手県地形模型
 - (52) 岩手の四季
 - (53) 県の鳥・木・花
 - 16 恵まれた自然
 - (54) 岩手の風土
 - (55) 山や川の生き物
 - (56) イヌワシの山
 - (57) 豊かな海

いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き
— 鉱物コレクション —
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と
被災文化財等救援活動

いわて文化史展示室

考古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

歴史

- (7) 中国古印
 - (8) 信仰
 - (9) 近代
 - (10) 板碑
 - (11) 江戸時代の貨幣
 - (12) 藩政時代の村
- #### 民俗
- (13) 南部小絵馬
 - (14) オシラサマ
 - (15) まいりのほとけ
 - (16) 郷土料理
 - (17) いわたの民芸
 - (18) 南部絵暦
 - (19) むかしの暮らし大図鑑

体験学習室

- (1) 身につける
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ
かるた、板がえし等
- (4) よむ

屋外展示

民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
奥州市江刺区伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)
下閉伊郡岩泉町指畑

散策広場

- ・植物園
県内の植物等345種
- ・岩石園
火山岩、変成岩、堆積岩49種

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

常設展示では、長期の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などにあわせた展示のため、展示替えを行っている。トピック展示では、特別展「スポーツ博覧会いわて」関連事業として「スポーツ前史－挑む・競う・戦う－」を実施した。また、「ホネの動物園」として多数の骨標本を展示した。

表（１）－１ 平成 28 年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	いわて自然史展示室	展示替え		ボスリオレピス、レピトテス、デケネラ、プロエタス	28. 4. 7～
2	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	武者人形	花巻人形ほか	28. 4. 12～ 5. 22
3	いわて文化史展示室「むかしの暮らし大図鑑」	展示替え		蚊帳ほか	28. 5. 24～
4	いわて自然史展示室	トピック展	地域限定の生きもの	タヌキ、ベニヒカゲほか	28. 5. 31～ 8. 31
5	いわて自然史展示室	トピック展	岩手県の石	蛇紋岩ほか	28. 5. 31～
6	グランドホール・ミニプラザ	企画展関連	国立科学博物館 コラボ・ミュージアム		28. 5. 31～
7	体験学習室	トピック展	たなばたかざり	(参加型展示)	28. 6. 9 ～ 8. 9
8	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		まいりのほとけ「放光阿弥陀如来立像図」、大漁着「長バンテン」ほか、野良着「ミジカ」	28. 6. 14～ 11. 6
9	総合展示室「古美術」	展示替え		岩手の古椀、川口月嶺・月村の絵画	28. 6. 14～
10	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		農村の暮らし、山村の暮らし、まつりと芸能コーナーに写真パネル等を新設	28. 6. 21～
11	総合展示室「いわての歩み」	展示替え		鯨尾兜、槍	28. 7. 26～
12	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	むかしのあかり	むかしのあかり	28. 7. 22～
13	総合展示室「いわての夜明け」	展示替え	拓かれた北上平野	中半入遺跡出土遺物、同遺跡及び角塚古墳との関連性解説パネル新設	28. 8. 24～
14	いわて自然史展示室	トピック展	トンボ・バッタ	アキアカネ、キリギリスほか	28. 9. 13～
15	総合展示室「いわての歩み」	特別公開		銅造観音菩薩立像	28. 9. 17～ 10. 10
16	総合展示室（歴史展示各所）	トピック展	スポーツ前史－挑む・競う・戦う－	志羅山遺跡出土「鳴鏑」（12世紀 重要文化財 平泉町教育委員会蔵）、伝小保内東泉筆「陸奥の土風（角土俵の場面）」（明治時代 二戸市指定文化財 個人蔵）ほか	28. 9. 22～ 11. 27
17	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	絵馬に描かれた猫	猫図絵馬ほか	28. 9. 13～
18	体験学習室	展示替え	ためすコーナー	魚つりの魚類と釣り針の更新	28. 10. 22 ～
19	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	いわてのしし踊り～戦後写真に見るししのかたち	森口多里写真コレクションから 31 カット	28. 10. 28 ～11. 6
20	自然史展示室	展示替え	トピック展写真	造巢期のクマゲラ、新緑の森吉、アオバトの乱舞、紅葉の白神ブナ林	28. 10. 29 ～
21	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		まいりのほとけ「放光阿弥陀如来立像図」、大漁着「長バンテン」ほか	28. 11. 7～
22	いわて自然史展示室・総合展示室	展示替え		エピアスターの一種（ウニ化石）ほか	28. 11. 2～
23	いわて自然史展示室	トピック展	海辺の虫	カワラハンミョウほか	28. 12. 5～

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
24	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	海辺の暮らし	森口多里写真コレクションから98カット	28.12.5～ 29.1.29
25	総合展示室「古美術」	展示替え		「酉」年にちなみ、「鶏」の絵画、花巻人形等	28.12.13 ～29.3.12
26	ミニプラザ	トピック展	「三陸の海鳥」「黒い鳥クイズ」	オオミズナギドリ、シノリガモ、ウミスズメ、ウミネコ、クマガラ（カービング）、カラスバト、ミヤマガラス	28.12.14 ～29.3.3
27	いわて文化史展示室「むかしの暮らし大図鑑」	展示替え	あたたまるための道具、いろいろの道具	火鉢、湯たんぼ、懐炉、火入れなど	28.12.16 ～
28	いわて文化史展示室	トピック展	いわての養蚕	真綿ほか	28.12.16 ～
29	いわて文化史展示室	展示替え	絵馬、南部絵暦、冬の民具、おしらさま、まいりのほとけ、岩手の民芸コーナー	陸前高田市猫淵神社ほか猫図絵馬、盛岡暦、竹スキー、又兵衛まつりほか	28.12.16 ～
30	いわて文化史展示室「近現代」	展示替え	引札、錦絵	引札26点 錦絵4点	28.12.16 ～
31	いわて自然史展示室	トピック展	岩手の野鳥	シジュウカラガン（乱舞、飛翔） A1 サイズのパネル	29.1.4～
32	ミニプラザ	トピック展	写生会作品展		29.1.21～ 2.12
33	いわて文化史展示室	トピック展	小田島禄郎コレクション「尖頭器」	尖頭器	29.1.25～ 3.17
34	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	ひいなを愛でる	館蔵ひな人形から古今雛3組、享保雛1組、岩手県産土人形ほか	29.1.31～ 3.12
35	サービスコーナー	新規	ビデオライブラリー	駒木鹿子踊公演DVDを追加	29.1.31～ 常設
36	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	茅の葺き替え、岩手の民家紹介	写真、茅葺き道具	29.2.11～
37	グランドホール	トピック展	ホネの動物園	恐竜からヒトまで多数の骨標本展示	29.2.14～ 4.2
38	いわて文化史展示室	トピック展	雨滝～考古学史に残る大遺跡～	雨滝遺跡の遺物と関連事象の紹介 テーマ展「19世紀岩手の風景」に連動	29.3.18～ 5.7
39	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		大漁着	29.3.31～

ウ. 特別展示の概要

平成28年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。合同移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団主催の事業で、当館・美術館・埋蔵文化財センターの3事業所が共同で久慈市を会場として行ったものである。

表(1)ー2 平成28年度の企画展・テーマ展・特別展

種別	名称	会期
企画展	「古生代の大量絶滅と回復 - 進化の影と光 -」	平成28年6月7日(火)～8月21日(日)
テーマ展	「大津波と三陸の生き物」	平成28年12月17日(土)～平成29年2月26日(日)
テーマ展	「絵画でたどる19世紀岩手の風景」	平成29年3月18日(土)～5月7日(日)
特別展	「近代へのとびら - 大島高任の挑戦 -」	平成28年3月26日(土)～5月15日(日)
特別展	「スポーツ博覧会いわて」	平成29年9月22日(木・祝)～11月27日(日)
巡回展	「秩父宮記念スポーツ博物館」	平成29年9月22日(木・祝)～11月27日(日)
共同展	国立科学博物館コラボミュージアム県内巡回展「古生代の大量絶滅と回復 - 進化の影と光 -」	岩泉町町民会館 平成28年8月27日(土)～9月11日(日) 大船渡市立博物館 平成28年9月16日(金)～12月4日(日) 久慈琥珀博物館 平成28年12月9日(金)～平成29年2月26日(日)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 久慈市」	平成29年1月20日(金)～1月22日(日)

(ア) 第 67 回企画展「国立科学博物館・コラボミュージアム in 盛岡 古生代の大量絶滅と回復 ー進化の影と光ー」

生命が地球上にあふれた顕生代には、これまでに合計 5 回の生物大量絶滅事件（通称ビッグ・ファイブ）が生じている。これらの絶滅事件によって、地球上の多くの生物が姿を消していったが、その一方で絶滅からの回復によって多くの生物が繁栄してきた。本企画展では生命史上最大と言われる古生代ペルム紀末に生じた大量絶滅事件を中心として、古生代の各時代に絶滅した生物とその後繁栄した生物について、実物の化石を展示しながら、絶滅と回復の背景を交えて紹介する。また、現在絶滅の危機にひんしている生物たちも併せて紹介し、現在我々が生きている第四紀完新世に第 6 の大量絶滅事件が生じる可能性について考える。

会期 平成 28 年 6 月 7 日（火）～8 月 21 日（日）76 日間

第 1 章の前半部のみ 5 月 31 日（火）からプレオープン展示。

会場 特別展示室・グランドホール

会期中の入館者数：10,077 人

[展示内容]

第 1 章 大量絶滅と生命の進化

地球上でこれまでに何度も生じた大量絶滅とその中でも特に規模の大きかった 5 回の大量絶滅事件（五大絶滅）や、各時代に絶滅した生物等の概要を紹介した。

展示標本：ヒパクロサウルス・アンモナイト キヤナドセラス・アノマロカリス（模型）・ネアンデルタール人の頭骨（複製）等

第 2 章 最初の大量絶滅：「オルドビス紀/シルル紀境界」絶滅事件

オルドビス紀末に生じた五大絶滅の最初の大量絶滅事件について紹介。また、オルドビス紀に続くシルル紀に繁栄した生物や岩手県との関わりについても展示を行った。

展示標本：オウムガイ エンドセラス・三葉虫トリアルトゥルス・大船渡市で産出したシルル紀のサンゴ化石等

第 3 章 謎の大量絶滅：「デボン紀後期」絶滅事件

デボン紀後期に生じた五大絶滅の 2 回目の大量絶滅事件について紹介。また、大船渡市や釜石市に存在する大量絶滅が生じた時代の地層と化石を展示した。

展示標本：板皮魚類 ダンクレオステウス・板皮魚類 ボスリオレピス・釜石市で産出した国内最古の植物化石・一関市で産出した国内最古のアンモナイト等

第 4 章 史上最大の大量絶滅：「ペルム紀/三畳紀境界」絶滅事件

史上最大の大量絶滅と言われる古生代ペルム紀末の大量絶滅事件について紹介。また、岩泉町に見られる、古生代ペルム紀から中生代三畳紀に移り変わる瞬間を記録した地層（P/T 境界層）の岩石を展示した。

展示標本：単弓類 ディメトロドン（複製）・は虫類 メソサウルス・アンモナイト チロリテス・魚竜 ウタツサウルス・岩泉町で産出した P/T 境界層粘土岩等

第 5 章 第 6 の大量絶滅？：「絶滅の危機にひんしている生物たち」

現在の日本及び岩手県において、絶滅してしまった生物や絶滅の危険性のある生物（絶滅危惧種）について紹介。

展示標本：宮古市で捕獲されたトキ・ニホンカワウソ・ミナミイトヨ・アカウミガメ・カブトガニ・ホソハンミョウ・フォーリーガヤ等

[関連事業]

展示解説会

2016 年 6 月 11 日（土）・7 月 31 日（日）・8 月 7 日（日） 14：30～15：30 計 79 人

子ども向け展示解説会

2016 年 8 月 1 日（月）・8 月 11 日（木） 10：30～11：30 計 26 人

特別講演会

2016 年 6 月 26 日（日）（日曜講座）

「生命史をひも解くーオールドビス紀・シルル紀」当館学芸員 望月貴史 44人
2016年7月10日(日) (日曜講座)

「岩泉に眠る古生代ー中世代の境界地層」東京大学大学院助教 高橋聡氏 86人
県内巡回展「国立科学博物館・巡回ミュージアム in 岩手 進化の影と光ー古生代の大量絶滅と回復ー」
2016年8月27日(土) ~2017年2月26日(日)

岩泉会場(※) : 岩泉町民会館 8月27日(土) ~9月11日(日) 来場者 204人
大船渡会場 : 大船渡市立博物館 9月16日(金) ~12月4日(日) 来場者 2,361人
久慈会場 : 久慈琥珀博物館 12月9日(金) ~2月26日(日) 来場者 1,772人
通算来場者数 4,337人

※岩泉会場は台風10号による被災の影響でほとんどの期間閉鎖。

シールラリー

岩手県立博物館と上記巡回展会場(被災により岩泉町民会館は設置を見送り)、三陸ジオパークの主要拠点施設5館(八戸市博物館・八戸ポータルミュージアムはっち・浄土ヶ浜ビジターセンター・釜石市立鉄の歴史館・唐桑半島ビジターセンター)を巡るシールラリーを実施。

【印刷物】

ポスター B2、カラー印刷、500部
リーフレット A4、両面(表:カラー印刷、裏:2色刷)、10,000部
図録 A4、カラー印刷、50ページ、300部(配布用)、100部(販売用、売価1,000円)

【イ】特別展「近代へのとびらー大島高任の挑戦ー」

2015年7月、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として橋野鉄鉱山の世界文化遺産登録が決定した。しかし、西日本に集中した構成資産の中で、なぜ橋野が選ばれたのかを、釜石が近代製鉄発祥の地となった自然的、人文的背景を資料から読み取れるよう構成した。また、橋野高炉の操業開始に大きな役割を果たした大島高任も、業績に比して、あまりに知られていない。那珂湊反射炉の築造に関わったことや大橋において初めての高炉による連続出銚に成功したことなどや世界遺産の構成資産となった橋野高炉について中心に紹介した。また、私学日新堂や日本初の鉱山学校の設立、現在の東京大学工学部につながる工学寮設立提言と実現、岩倉遣欧使節団への参加、釜石、小坂、佐渡など全国各地の鉱山で第一人者として活躍した高任の足跡を紹介するとともに、父周意や弟福治、長男の道太郎など高任の周囲の人々や古くから製鉄に携わった沿岸の人々、耐火レンガ製作に関わった花巻の人々等も扱った。

会期 : 平成28年3月19日(土) ~5月15日(日) 51日間

会場 : 特別展示室 一部いわて文化史展示室

会期中の入館者数 : 6,931人

【展示内容】

第一章 いわてと鉄
第二章 近代製鉄誕生前夜
第三章 大島高任と釜石鉱山
第四章 大島高任と日新堂
第五章 明治期の大島高任
第六章 近代以降の釜石鉱山(一部いわて文化史展示室)
第七章 大島高任と産業国家日本1 シンボル展示

【関連事業】

①展示解説会 4月3日(日) 午後2時30分から3時30分 参加者21名
4月23日(土) 午後2時30分から3時30分 参加者14名
5月14日(土) 午後2時30分から3時30分 参加者26名

②日曜講座

3月27日(日) 午後1時30分から3時

「日本史の中の釜石鉱山」当館学芸員笠原雅史 聴講者 84名

4月10日(日) 午後1時30分から3時30分

「エクスカッション『釜石』～2つのコースで釜石をめぐる～」

当館前館長中山敏氏

聴講者 41名

4月24日(日) 午後1時30分から3時

「世界遺産としての橋野高炉」 岩手大学理工学部准教授小野寺秀輝氏

聴講者 45名

③ 鋳物体験

3月26日(土) 午後1時から4時 講師 岩手大学工学部教授平塚貞人氏

参加者 45名

④ たたら製鉄体験 講師 元釜石市鉄の歴史館職員 留畑昌市氏

3月27日(日) 午前9時30分から午後3時 見学者 約350名

5月5日(金) 午前9時30分から午後3時 見学者 約500名

【印刷物】

ポスター B2、カラー印刷、1,000部

リーフレット A4、両面(表 カラー印刷)、7,000部

図録 A4、カラー印刷、56ページ、300部(配布用)、400部(販売用、売価税別1,000円)

(ウ) 特別展「スポーツ博覧会いわて」

平成28年に本県で開催される第71回国民体育大会(2016希望郷いわて国体)及び第16回全国障害者スポーツ大会(2016希望郷いわて大会)の会期に合わせて開催した展覧会である。昭和45年の第25回国体及び岩手県ゆかりの選手・指導者に焦点を当てながら、岩手県のスポーツ史を紹介した。また、震災とスポーツの関わりも併せて紹介し、今国体を岩手で行う意義成果などを広く県内外の方々に伝える機会を提供した。

会期：平成28年9月22日(木・祝)～11月27日(日) 58日間

会場：特別展示室、ミニプラザ

会期中の入館者数：11,957人

【展示内容】

- 1 みちのく国体への道…第25回国民体育大会炬火トーチ・ポスター ほか
- 2 岩手のスポーツ人
「開拓者たち」久慈次郎関連資料ほか
「挑戦者たち」大谷翔平ユニフォーム、小笠原満男ユニフォームほか
「障がい者スポーツとパラリンピック」車椅子バスケットボール用車椅子ほか
「さばく」大相撲27代木村庄之助行司装束ほか
「王国岩手の誕生」新日鐵釜石ジャージほか
- 3 復興とスポーツ…岩清水梓2011FIFA女子ワールドカップ日章旗ほか
- 4 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会…炬火トーチ、炬火台ミニチュアほか

【関連事業】

- 1 オープニングセレモニー 9月22日(木・祝) 9:00～9:30
- 2 スポーツ実演 9月22日(木・祝) 11:00～11:30 参加者 54名
武術太極拳(岩手県太極拳協会)

- 3 ギャラリートーク 9月24日(土) 14:00～15:00 参加者 12名
佐藤洋太氏(第23代WBC世界スーパーフライ級王者)
- 4 県博日曜講座 9月25日(日) 13:30～15:00 参加者 20名
「スポーツ博覧会いわて」の舞台裏 原田 祐参(当館学芸員)
- 5 県博日曜講座 10月9日(日) 13:30～15:00 参加者 23名
「障害を乗り越えて～車椅子バスケットボールの指導を通して～」
岩佐 義明氏(宮城MAXヘッドコーチ)
- 6 ニューススポーツ体験(クップ、インディアカ、ペタンク)
10月16日(日) 岩手県立博物館まつりの中で開催
- 7 ギャラリートーク 10月23日(日) 11:00～12:00 参加者 12名
小沢みさき氏(北京オリンピック女子ホッケー日本代表)
- 8 文化講演会 11月3日(木・祝) 13:30～15:00 参加者 125名
「挑戦する心」 松尾 雄治氏(元新日鐵釜石ラグビー部)
- 9 県博日曜講座 11月13日(日) 13:30～15:00 参加者 29名
「審判から見た世界の舞台」 高橋早織氏(サッカー女子1級審判員)
- 10 スポーツ実演 11月19日(土) 11:00～11:30 参加者 38名
なぎなた(岩手県立盛岡第二高等学校なぎなた部)

【印刷・広報物】

- 1 ポスターB2版4色刷 1,500枚
- 2 リーフレットA4版表裏4色刷 50,000枚
- 3 パンフレット A4判全頁4色刷中綴じ20頁 500部
(配布用250部、販売用250部・売価250円)

【エ】「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展-2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる-」

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国各地でオリンピック・パラリンピックのレガシーを伝え、博物館資料を通じスポーツへの興味・関心を高めるべく、50年が経過してもいまだに国民の関心が高い1964年第18回東京オリンピック関係の資料を中心に紹介した。

会期：平成28年9月22日(木・祝)～11月27日(日) 58日間

会場：文化史展示室

会期中の入館者数：11,957人

【展示内容】

- 1 日本のオリンピック参加黎明期
- 2 1964年東京オリンピック・パラリンピック
- 3 日本で行われた冬季オリンピック/札幌・長野
- 4 近年のオリンピック・パラリンピック/ロンドン・ソチ
- 5 新しい日本そして輝く未来へ

【関連事業】

11月19日(土) 13:00～15:15 参加者 25名

「トップアスリートを支える～国立スポーツ科学センターのサポート事例から～」

窪康之氏・佐々木丈予氏(国立スポーツ科学センター(JISS)スポーツ科学部)

【印刷物】

- 1 ポスター500枚
- 2 リーフレット20,000枚

（オ）テーマ展「大津波と三陸の生き物」

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれに続く津波は、人間社会のみならず、生態系にも大きな変化をもたらし、その影響は今も続いている。この展覧会では、あの日を境に大きく変化した三陸の生き物と風景を追いかけ、海底や干潟、砂浜や磯、河川や湿地にすむ様々な生き物にスポットを当てながら、多くの科学的調査によって明らかになった生態系の驚くべき回復力とその仕組み、さらに復興工事の影響や保全の取り組みについて紹介した。

会期：平成28年12月17日（土）～平成29年2月26日（日）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：6,120名

〔展示内容〕

（1）くりかえし起きる津波

7,000年分の地層剥ぎ取り標本（田野畑中学校蔵）、明治三陸津波関連資料（当館蔵）等

（2）「三陸とは」

三陸地誌略（当館蔵）、東日本大震災津波詳細図抜粋 三陸海岸大判地図（製作）等

（3）大津波の影響と回復する自然

① 海底で 採泥器、底泥調査

② 浅海で アマモ場、ウニ・貝類

③ 岩礁で 岩礁模型

④ 干潟で 貝類・甲殻類

⑤ 河口で ヨシ原、汽水域

⑥ 海と川の間で 回遊魚

⑦ 海崖で 植物、海鳥

⑧ 砂浜で 植物、昆虫・クモ

⑨ 海岸林で 植物

⑩ 湿地で 植物

⑪ 水産業への影響 水産物生産量の変化、貝毒など

（4）復興工事と保護の取組

◆トピック 三陸の風景

〔関連事業〕

1) 展示解説会

実施日・参加者数：平成28年12月18日（日）・9人、平成29年1月9日（月・祝）・6人、1月15日（日）・3人、1月28日（土）・28人、2月5日（日）・23人、2月11日（土・祝）・10人、2月25日（土）・12人、
時間：14:45～15:30（45分間）

場所：岩手県立博物館 特別展示室

2) 日曜講座

日時・講師・演題・参加人数：

ア）平成28年12月25日（日）13:30-15:00 講師：鈴木まほろ（当館学芸員）「繰り返し訪れる津波と三陸の自然」・89人

イ）平成29年1月8日（日）13:30-15:00 講師：松政正俊氏（岩手医科大学教授）「大津波と三陸の海と河口の動物たち」・71人

ウ）平成29年1月22日（日）13:30-15:00 講師：島田直明氏（岩手県立大学准教授）「岩手県の砂浜の現状と海浜植物の保全対策」・59人

場所：岩手県立博物館 講堂

後援：岩手生態学ネットワーク、日本生態学会東北地区会

〔印刷物〕

- 1 ポスター B2判コート紙 135kg 4色刷 300枚
- 2 リーフレット A4判コート紙 90kg 表裏4色刷 10,000枚
- 3 ガイドブック A4判4色刷中綴じ16頁 550部（配布用300部、販売用250部・売価200円）
- 4 ポストカード 4色刷 50枚×3種 売価50円

（カ）テーマ展「絵画でたどる19世紀岩手の風景」

本展開催の2017年は、大政奉還から150年にあたる。江戸から明治へと時代が移った19世紀は、長く続いた武士の世が終わり、岩手県が誕生し、人々の暮らしが劇的に変化した時代である。西洋の文物が流入し、鉄道が通り、日常の風景も変化した。近代科学思想の影響を受けて、日本人の自然観や風景観が変化した時代でもある。

本展では、江戸の面影と明治の鼓動を伝える絵画をとおして、19世紀ふるさと岩手の風景を紹介した。

会期 平成29年3月18日（土）～平成29年5月7日（日）

会場 特別展示室

〔展示内容〕

- (1) 旅の空～奥州街道をゆく～
- (2) 汽車の窓辺～日本鉄道沿線をゆく～
- (3) 畏敬と憧憬～追憶の城下町盛岡～
- (4) 記憶の彼方～ありし日のふるさと～

〔関連事業〕

1) 展示解説会

実施日・参加者数：平成29年3月20日（月）・17人

時間：14:30～15:30

場所：岩手県立博物館 特別展示室

2) 日曜講座

日時・講師・演題・参加人数：

平成29年3月26日（日）13:30～15:00 講師：齋藤里香（当館学芸員）「川口月村の『奥羽寒図記』～日本鉄道沿線をゆく～」・62人

場所：岩手県立博物館 講堂

〔印刷物〕

- 1 ポスター B2判上質紙 110kg 4色刷 400枚
- 2 リーフレット A4判上質紙 90kg 表裏4色刷 7,000枚
- 3 パンフレット A4判マットコート紙 90kg 4色刷 中綴じ20頁 500部（配付用250部、販売用250部 売価200円）

（キ）移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 久慈市」

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成20年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展（岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展）という形態で実施され、さらに平成24年度からは（公財）岩手県文化振興事業団の4事業所（埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館）が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることを意識し、埋蔵文化財センター・当館の2事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所がどのような資料を対象として扱い、研究・公開を行っているのかといったことから、一般向けにどのような教育普及事業を行っているのかとい

ったことまでを伝えることができた。また、久慈市文化会館という広い展示スペースで開催したことで導線を広く確保することができ、展示解説会の実施時にも混雑することなく多くの方々を会場内に案内することができた。

会期：平成 29 年 1 月 20 日（金）～1 月 22 日（日） 3 日間

会場：久慈市文化会館 アンバーホール

タイトル：『合同展～平成 28 年度岩手県立博物館移動展・第 37 回埋蔵文化財展』

来場者数：657 人

〔展示内容〕 展示総数 94 点

- 1 考古 蕨手刀 計 1 点（他、埋蔵文化財センターと合同展）
- 2 歴史 錦絵（源平大合戦、赤間ノ浦源平大戦之図、武勇合戦寿古録）、南部根元記、南部旧指録、盛岡藩領内図、鐔・拵 計 16 点
- 3 民俗 大漁バンテン（複製）、御守冊手本、かもめ印マジック洗濯機、裁縫電化鋺、ゆで卵器、昭和のレコード、暮らしの手帖など 計 36 点
- 4 生物 動物剥製標本（イイズナ、アルビノのツキノワグマとその子供、ツキノワグマの嬰兒、ハイイロオオカミ、ニホンジカ幼獣）計 7 点
- 5 地質 久慈層群琥珀、マンガン鉱石、山形町日野沢鉱山産の鉱物、大川目町坪穴鉱山産の鉱物、植物化石、恐竜化石など 計 29 点
- 6 文化財科学 当館における被災文化財等救援活動、救援活動のあゆみ、安定化处理の工程例、植物標本の安定化处理（パネル展示） 計 5 点

〔関連事業〕

展示解説会 1 月 22 日（日）13：00～13：30 参加者 35 人

（２）教育普及活動

平成 29 年度の教育普及事業として 34 事業を開催した。講演会・講座としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催した。土曜・休日の子供向け事業では、8 回目を迎えた「博物館まつり」を始めとして、毎週日曜日開催の「たいけん教室～みんなでためそう～」、第 2・第 3 土曜・日曜日開催の「チャレンジ！はくぶつかん」等の土曜・休日の子供向け事業や、毎月第 1 土曜日開催の「ミュージアムシアター」を実施した。また、夏休み（8 月）の特別企画として「ワードパズル」「子ども向け定時解説」を、冬休みのイベントとして「冬休みワクワク！ワークショップ」を 1 日間開催したほか、試行事業として 8 月に「ナイトミュージアム」を 2 日間、「ミュージアムコンサート」を 10 月と 12 月に行い好評をえた。学習支援や社会教育事業の一環として、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用についても積極的に対応した。毎年、国際博物館の日の関連イベントとして「県博バックヤードツアー」を開催している。

ア. 開催事業

I 展示付帯事業

表（２）－１ 平成 28 年度開催事業

■学芸員による展示解説会（展覧会／定時）

延べ 334 名

	期日	曜日	講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	4 月 3 日	日	笠原雅史	特別展「近代へのとびら」	21
2	4 月 23 日	土	笠原雅史	特別展「近代へのとびら」	14
3	5 月 14 日	土	笠原雅史	特別展「近代へのとびら」	26
4	6 月 11 日	土	望月貴史	企画展・国立科学博物館コラボミュージアム「古生代の大量絶滅と回復」	40
5	7 月 31 日	日	望月貴史	企画展・国立科学博物館コラボミュージアム「古生代の大量絶滅と回復」	23
6	8 月 1 日	月	望月貴史	同上（子ども向け）	13
7	8 月 7 日	日	望月貴史	企画展・国立科学博物館コラボミュージアム「古生代の大量絶滅と回復」	16
8	8 月 11 日	木	望月貴史	同上（子ども向け）	13
9	9 月 24 日	土	佐藤洋太氏	ギャラリートーク	10
10	10 月 23 日	日	小沢みさき氏	ギャラリートーク	15

	期日	曜日	講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
11	12月18日	日	鈴木まほろ	展示解説会	9
12	1月9日	月・祝	鈴木まほろ	展示解説会	6
13	1月15日	日	鈴木まほろ	展示解説会	3
14	1月22日	日	近藤良子	移動展展示解説会	35
15	1月28日	土	鈴木まほろ	展示解説会	28
16	2月5日	日	鈴木まほろ	展示解説会	23
17	2月11日	土・祝	鈴木まほろ	展示解説会	10
18	2月25日	土	鈴木まほろ	展示解説会	12
19	3月20日	月・祝	齋藤里香	展示解説会	17

■共催展「国立科学博物館・巡回ミュージアム in 岩手」（移動展覧会とイベント） ※地質部門[望月貴史]担当 延べ4337名

	期日	会場	内容等	参加者数
1	平成28年8月27日(土)~9月11日(日)	岩泉町民会館	移動展示(台風の影響で4日間のみ開催)	204
2	平成28年9月16日(金)~12月4日(日)	大船渡市立博物館	移動展示と恐竜3Dぬりえ	2361
3	平成28年12月9日(金)~平成29年2月26日(日)	久慈琥珀博物館	移動展示と化石レプリカ作り・恐竜3Dぬりえ	1772

■解説員による定時解説

延べ330人

月	成立回数	参加者数	対応時間(分)
4月	11	19	830
5月	11	33	895
6月	9	26	815
7月	11	30	875
8月	26	148	1335
9月	3	5	260
10月	9	16	895
11月	4	10	405
12月	5	14	325
1月	4	8	335
2月	6	11	510
3月	7	10	570
合計	106	330	8050

※平成25年度7月より、原則として毎日実施している。

■解説員による依頼解説(随時/常設)

延べ1994人

事業名	実施日	参加者数	総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		講師	団体数	
			地質	考古	歴史	民俗	現勢・生物	考古	歴史	民俗	地質	生物			
解説	4月	学校等	10	1	1	1	0	1	0	0	0	0	解説員	1	
		一般	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0		2	
	5月	学校等	28	1	1	0	1	0	1	0	1	0		0	3
		一般	31	6	6	6	5	5	1	1	1	1		1	7
	6月	学校等	291	2	1	2	2	1	0	0	1	0		0	7
		一般	93	6	6	9	6	7	0	0	1	1		2	10
	7月	学校等	76	3	4	3	2	2	0	0	0	0		0	5
		一般	174	6	6	3	4	4	0	0	0	0		0	8
	8月	学校等	54	0	2	2	0	0	0	0	0	0		0	1
		一般	153	7	6	9	9	9	1	1	1	4		5	12
	9月	学校等	70	1	0	0	1	0	0	0	2	0		0	2
		一般	25	2	3	3	3	3	0	0	0	0		0	3
	10月	学校等	62	4	3	3	4	4	0	0	1	1		1	6
		一般	40	8	8	8	7	7	0	0	0	1		1	11
	11月	学校等	394	2	2	2	4	2	0	0	4	0		0	5
		一般	152	8	8	9	8	9	0	0	0	1		2	12
	12月	学校等	101	0	0	0	2	0	0	0	0	0		0	2
		一般	16	2	1	1	1	1	0	0	0	0		0	2
	1月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
		一般	30	2	2	2	2	2	0	0	1	0		0	3
	2月	学校等	135	0	0	0	5	0	0	0	4	0		0	5
		一般	38	7	7	6	3	4	0	0	0	0		0	7
	3月	学校等	19	0	0	0	2	0	0	0	1	0		0	2
		一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
	計	1994	70	69	71	73	63	3	2	18	9	12	116		

	期日		当番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
1	4月9日	土	作成:望月貴史 当番:川向富貴子、近藤良子、望月貴史	山	23	71	
2	4月10日	日			17		
3	4月16日	土			4		
4	4月17日	日			27		
5	5月14日	土	作成:川向富貴子 当番:川向富貴子、吉田充、齋藤里香	緑	9	30	
6	5月15日	日			11		
7	5月21日	土			2		
8	5月22日	日			8		
9	6月11日	土	作成:近藤良子 当番:佐々木康裕、近藤良子	古	25	89	
10	6月12日	日			28		
11	6月18日	土			17		
12	6月19日	日			19		
13	7月9日	土	作成:佐々木康裕 当番:佐々木康裕、近藤良子	魚	43	168	
14	7月10日	日			31		
15	7月16日	土			17		
16	7月17日	日			39		
17	7月18日	月・祝			38		
18	8月13日	土	作成:丸山浩治 当番:齋藤里香、丸山浩治	わ	17	109	保護者17名
19	8月14日	日			21		保護者21名
20	8月15日	月			20		保護者21名
21	8月20日	土			30		保護者17名
22	8月21日	日			21		保護者19名
23	9月17日	土	作成:吉田充 当番:望月貴史、吉田充	新	27	107	保護者18名
24	9月18日	日			22		保護者21名
25	9月19日	月・祝			24		保護者22名
26	9月24日	土			11		保護者10
27	9月25日	日			23		保護者19
28	10月8日	土	作成:齋藤里香 当番:齋藤里香、佐々木康裕	戦う・競う	14	393	保護者14
29	10月9日	日			29		保護者22
30	10月10日	月・祝			17		保護者18
31	10月15日	土			14		保護者10
32	10月16日	日			319		博物館まつり
33	11月12日	土	作成:望月貴史 当番:望月貴史、吉田充	体	8	121	保護者11
34	11月13日	日			26		保護者12
35	11月19日	土			38		保護者15
36	11月20日	日			49		保護者20
37	12月10日	土	作成:川向富貴子 当番:丸山浩治、川向富貴子	白	10	58	保護者8
38	12月11日	日			16		保護者14
39	12月17日	土			4		保護者3
40	12月18日	日			28		保護者28
41	1月14日	土	作成:佐々木康裕 当番:佐々木康裕、近藤良子	鳥	9	56	保護者10
42	1月15日	日			12		保護者8
43	1月21日	土			10		保護者9
44	1月22日	日			25		保護者13
45	2月11日	土	作成:丸山浩治 当番:丸山浩治、吉田充	三陸	14	65	保護者17
46	2月12日	日			13		保護者12
47	2月18日	土			11		保護者5
48	2月19日	日			27		保護者22
49	3月11日	土	作成:近藤良子 当番:近藤良子、川向富貴子、望月貴史	絵	55	389	保護者55
50	3月12日	日			76		保護者69
51	3月18日	土			85		保護者110
52	3月19日	日			101		保護者117
53	3月20日	月・祝			72		保護者72

※当館学芸員が毎月作成するワークシートの配布(4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成)。今年度は13名の最優秀チャレンジャー(全12回のテーマに参加した皆勤賞、4回目3名、3回目4名、2回目1名、1回目5名)が誕生した。

■民家の展示解説（全2回）※学芸第三課 [近藤良子] 担当

延べ45名

	期日		演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	3月20日	月・祝	展示解説	30	
2	3月20日	月・祝	展示解説	15	

■ガマ・ワラ細工の実演 ※民俗部門 [近藤良子] 担当

延べ93名

	期日		講師	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月8日	日	阿部茂巳氏	わら細工の実演と体験	17	
2	6月12日	日		ガマ・わら細工の実演と体験	22	
3	7月10日	日		ガマ細工の実演と体験	12	
4	8月14日	日		わら細工の実演と体験	14	
5	9月18日	日		わら細工の実演と体験	18	
6	10月9日	日		わら細工の実演と体験	10	

■「ワードパズル」

※学芸第三課 [近藤良子]

延べ633人

	期日		シート作成者	テーマ	参加者数	備考
1	7月20日	水	作成:近藤良子 当番:総務課、学芸第三課	かんたん	176	
				ふつう	177	
				むずかしい	280	

※当館学芸員作成のワードパズルの配布

■ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料を探る～

※学芸第三課 [吉田充]

延べ46人

	期日		時間	講師・運営	参加者数	備考
1	8月10日	水	16:00 ～ 18:00	専門解説:吉田充(地質)、渡辺修二(生物)、丸山浩治(考古)、佐々木康裕(歴史)、近藤良子(民俗) 引率:齋藤里香・鈴木まほろ、望月貴史・皇香奈子・三河綾乃 受付:古川明美・矢幅妙子	22	24名予約 (1組2名キャンセル)
2	8月11日	木・祝	16:00 ～ 18:00	照明操作:小野寺聡美 展示室巡回:石川依子・草島千香子 連絡調整:川向富貴子	24	25名予約

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」 ※学芸第三課 [丸山浩治・解説員] 担当

	発行日		シート作成者	テーマ
1	4月4日	金	田村優子	厄払い人形
2	5月2日	金	皇香奈子	ニホンジカ
3	6月6日	金	三河綾乃	おてだま
4	7月4日	金	石川依子	北上山地のサンゴ化石
5	8月1日	金	草島千香子	黒曜石
6	9月12日	金	藤嶋マミ	金色堂の華鬘
7	10月3日	金	那須優香子	南部の角土俵
8	11月7日	金	川崎智子	ウミタナゴ
9	12月5日	金	齋藤菜穂美	女学生装束
10	1月9日	木	小田嶋麻記子	足あと化石
11	2月6日	木	伊藤敦子	角塚古墳
12	3月5日	木	田村優子	北上川の舟運

※当館解説員が毎月作成する展示資料解説カードの配布。

■春の特別企画（トピック展）「ホネの動物園」関連イベント

※学芸第一課 [渡辺修二] 担当

①展示解説会

延べ162人

	期日		講師	参加人数	備考
1	2月25日	土	渡辺修二	15	
2	3月4日	土	渡辺修二	23	子ども13
3	3月11日	土	渡辺修二	15	
4	3月18日	土	渡辺修二	30	子ども15
5	3月19日	日	渡辺修二	40	子ども20
6	3月22日	水	望月貴史・小野寺俊彦	23	
7	3月25日	土	望月貴史	16	子ども6

②骨格組み立て体験

延べ71人

	期日		講師	参加人数	備考
1	3月4日	土	渡辺修二・望月貴史	8	子ども5
2	3月11日	土	渡辺修二	17	子ども10
3	3月18日	土	渡辺修二	18	子ども10
4	3月24日	金	渡辺修二	12	子ども9
5	3月31日	金	望月貴史・渡辺修二	16	子ども10

③でっかい恐竜と写真撮影

延べ1046人

	期日		当番	参加人数	備考
1	2月25日	土	渡辺修二・望月貴史・小野寺俊彦	50	
2	2月26日	日	望月貴史・小野寺俊彦	106	子ども50
3	3月4日	土	渡辺修二・望月貴史	56	子ども33
4	3月11日	土	渡辺修二・望月貴史・小野寺俊彦・笠原雅史・藤井忠志	80	
5	3月17日	金	渡辺修二・小野寺俊彦・笠原雅史	27	子ども13
6	3月18日	土	渡辺修二・吉田充	124	子ども67
7	3月19日	日	渡辺修二	126	子ども60
8	3月22日	水	望月貴史・小野寺俊彦	70	
9	3月24日	金	望月貴史・小野寺俊彦	45	子ども29
9	3月25日	土	望月貴史・小野寺俊彦	92	子ども59
10	3月26日	土	望月貴史・小野寺俊彦・渡辺修二	206	子ども95
11	3月31日	金	望月貴史・小野寺俊彦・渡辺修二	64	子ども40

④ホネの動物園スペシャルイベント

延べ174人

	期日		講師等	演題・イベント名等	参加人数	備考
1	3月25日	土	講師:西澤真樹子氏(なにわホネホネ団) 補助:渡辺・鈴木・望月・岩手大学自然史探偵団	みんなでホネホネたん けんたい	39	子ども17
2	3月26日	日	講師:西澤真樹子氏(なにわホネホネ団) 補助:渡辺・鈴木・望月・岩手大学自然史探偵団	ホネの缶バッチづくり	135	子ども79

II 教育普及事業

■文化講演会 [1回] ※共通 [原田祐参] 担当

延べ125人

	期日		講師	演題	備考
1	11月3日	木・祝	松尾雄治氏(元新日鐵釜石ラグビー部)	挑戦する心	

※【昭和56年度～】特別展「スポーツ博覧会いわて」関連事業として実施。

■北上川水源地域セミナー [1回] ※北上川ダム統合管理事務所共催/学芸第二課 [小野寺俊彦] 担当

延べ26人

	期日		講師	演題	備考
1	12月10日	土	金子昭彦	川べりの縄文人 in 岩手	

※【平成25年度～】北上川ダム統合管理事務所との共催によるセミナー。H27年度に四十四田ダム水源地域セミナーを北上川水源地域セミナーに改名した。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当、職員が部門持ち回りで講師を務めている(第1回:地質部門、第2回:民俗部門 第3回:歴史部門 第4回:生物部門)。

■iPS細胞と再生医療市民講座 [1回] ※生物部門 [渡辺修二] 担当

延べ50人

	期日		講師	テーマ	備考
1	11月6日	日	青井貴之氏(神戸大学) 八代嘉美氏(京都大学 iPS細胞研究所)	新しい医療をのぞいてみよう ～iPS細胞と再生医療～ 1部:講演会 2部:サイエンストーク	日本再生医療学会 岩手県立博物館主催

■秩父宮記念スポーツ博物館岩手巡回展関連事業 ※共通 [原田祐参] 担当

延べ25人

	期日		講師	演題	備考
1	11月19日	土	窪康之氏・佐々木文予氏 国立スポーツ科学センター(JISS)スポーツ科学部	トップアスリートを支える ～国立スポーツ科学センターのサポート事例から～	

■岩手県立博物館友の会話のサロン ※学芸第二課[小野寺俊彦]担当

延べ41人

	期日		講師	演題	参加人数	備考
1	5月14日	土	吉田勝治氏(日本菌学会東北支部副会長・岩手菌類研究同好会会長・友の会会員)	還元を担う生き物・キノコ〜ヒダのあるキノコ(ハラタケ類)の分類	13	
2	2月19日	日	高橋信雄氏(花巻市博物館長)	花巻人形の世界	28	

■県博日曜講座 [全24回] ※学芸第三課 [丸山浩治] 担当

延べ1051人

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	4月10日	日	中山敏氏(当館前館長)	エクスカーション『釜石』～2つのコースで釜石をめぐる～	41	企画展関連講座
2	4月24日	日	小野寺英輝氏(岩手大学理工学部准教授)	世界遺産としての橋野高炉	45	企画展関連講座
3	5月8日	日	丸山浩治	火山灰から社会をよむ - 堅穴住居のかたち編 -	34	
4	5月22日	日	佐々木康裕	中世の南部氏に関する基礎的考察	59	
5	6月12日	日	川向富貴子	あの世のはなし	37	
6	6月26日	日	望月貴史	生命史をひも解く - オルドビス紀・シルル紀 -	44	企画展関連講座
7	7月10日	日	高橋聡氏(東京大学助教)	岩泉に眠る古生代-中生代の境界地層	86	企画展関連講座
8	7月24日	日	吉田充	砂金の母岩をさぐる 2	36	
9	8月14日	日	渡辺修二	洞穴に生きる虫たち	10	※友の会話のサロンを兼ねる
10	8月28日	日	笠原雅史	資料からさぐる戦時中のいわて	25	
11	9月11日	日	杉本良氏(北上市立博物館館長補佐)	俘囚の大寺院 国見山廃寺	68	※考古学セミナーを兼ねる
12	9月25日	日	原田祐参	「スポーツ博覧会いわて」の舞台裏	13	特別展関連講座
13	10月9日	日	岩佐義明氏(宮城MAXヘッドコーチ)	障害を乗り越えて～車椅子バスケットボールの指導を通して～	23	特別展関連講座
14	10月23日	日	赤沼英男	海を渡った鉄 — 蕨手刀・鉄鍋・南部鉄 —	29	※友の会話のサロンを兼ねる
15	11月13日	日	高橋早織氏(サッカー女子一級審判員)	審判から見た世界の舞台	29	特別展関連講座
16	11月27日	日	藤井忠志	新たな展開を迎えつつある本州のクマゲラ	51	
17	12月11日	日	小野寺俊彦	魂の行方	36	
18	12月25日	日	鈴木まほろ	繰り返し訪れる津波と三陸の自然	89	テーマ展関連講座
19	1月8日	日	松政正俊氏(岩手医科大学教授)	大津波と三陸の海と河口の動物たち	71	テーマ展関連講座
20	1月22日	日	島田直明氏(岩手県立大学准教授)	岩手県の砂浜の現状と海浜植物の保全対策	59	テーマ展関連講座
21	2月12日	日	金子昭彦	考古学者がやっていること	43	
22	2月26日	日	小山内透	発掘調査から出土資料が展示されるまで	26	
23	3月12日	日	近藤良子	絵馬の世界～東北地方の絵馬を訪ねて～	35	
24	3月26日	日	齋藤里香	川口月村の「奥羽寒図記」～日本鉄道沿線をゆく～	62	テーマ展関連講座

※当館職員または外部講師による講演会。展覧会関連事業は展覧会広報の相乗効果によるものか参加者数が多い傾向にある。

■国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー [1回] ※学芸第三課 [川向富貴子] 担当

延べ28人

	期日		講師	概要	参加人数	備考
1	5月15日	日	学芸員	友の会自然コース(約70分)	6	事前申込制
2				友の会歴史コース(約70分)	2	
3				友の会文化財コース(約70分)	4	
4				一般自然コース(約60分)	10	
5				一般歴史コース(約60分)	6	

※【平成16年度～】5月18日の国際博物館の日記念事業として実施。前年度から事前申込み制とした。また、前年度は新たに岩手県立博物館友の会を対象とするコースを設けた。

■深海ぼうけん絵本読み聞かせ&ギターライブ ※生物部門[渡辺修二]担当

延べ79人

	期日		講師等	備考
1	5月5日	木・祝	加藤千明氏(独立行政法人海洋研究開発機構 海洋生物多様性研究分野シニア研究員) 佐藤孝子氏(独立行政法人海洋研究開発機構 地球情報基盤センター地球情報技術部技術副主幹)	

■古文書入門講座 [全8回] ※歴史部門 [佐々木康弘] 担当

延べ 175 人

	期日		講師等	テキスト	参加者数	備考
1	5月7日	土	笠原雅史	子供早学問	24	事前申込制 (申込数 25)
2	5月8日	日	笠原雅史	子供早学問	24	
3	5月14日	土	齋藤里香	書館定	20	
4	5月15日	日	齋藤里香	書館定	23	
5	5月21日	土	原田祐参	平泉往来	20	
6	5月22日	日	原田祐参	平泉往来	22	
7	5月28日	土	佐々木康裕	平泉往来	21	
8	5月29日	日	佐々木康裕	平泉往来	21	

■イワテミュージアムコンサート ※学芸第三課 [望月貴史] 担当

延べ 185 人

	期日		講師等	参加者数	備考
1	10月2日	日	吉川 (きっかわ) よしひろ	79	子ども 15 人
2	12月24日	土	トリオ・ヴィオレ 吉原正教 (Tb)・吉原美輪子 (A. Hr)・三神樹美 (P)	106	子ども約 40 人 テレビ局 3 社取材

※今年度試行で始めた自主事業である。1 回目は耳に障害を持つ演奏者のパフォーマンスで、市内 4 支援学校に広報活動を行い、教職員・生徒・保護者も参加した。2 回目は金管楽器を主とした演奏で、子供たちは歌って踊って楽しいひと時を過ごした。楽器を目の前にし、生の音が聞けること、じつとしくなくても良い演奏会だった。いずれも大好評であった。

■伝統芸能鑑賞会 ※民俗部門 [川向富貴子] 担当

延 290 人

	期日		講師	演題・イベント名	参加者数	備考
1	10月29日	土	遠野市駒木鹿子踊保存会	遠野郷のしし踊り～駒木鹿子踊公演～	290	岩手県指定無形民俗文化財

※【平成 14 年度～】

■スポーツ実演 ※ [渡辺修二] 担当

延べ 100 人

	期日		講師等	種目	参加者数	備考
1	9月22日	木・祝	岩手県太極拳協会	武術太極拳演武	50	
2	11月19日	土	岩手県立盛岡第二高等学校なぎなた部	なぎなた演技	50	

※特別展「スポーツ博覧会いわて」関連イベント

■ニュースポーツ体験 ※ [渡辺修二] 担当

	期日		講師等	種目	参加者数	備考
1	10月16日	日	学芸員	国体デモンストラーションスポーツ 「ベタンク」「クップ」「インディアカ」	-	岩手県立博物館まつりプログラムの一環として実施

※特別展「スポーツ博覧会いわて」関連イベント

■考古学セミナー [全2回] ※考古部門 [丸山浩治] 担当

延べ 22 人

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	9月11日	日	杉本良氏 (北上市埋蔵文化財センター)	講演会：俘囚の大寺院 国見山廃寺	(重複)	県博日曜講座を兼ねる
2	9月17日	土	杉本良氏ほか	現地見学会：国見山廃寺を歩く	22	申込者：39 名

■自然観察会 [全2回] ※生物部門 [鈴木まほろ・渡辺修二] 担当

延べ 47 人

	期日		講師等	テーマ	参加者数	備考
1	5月22日	日	鈴木まほろ (学芸員)	第 71 回自然観察会：和賀仙人の森の巨人に会いに行こう	23	申込者：23 名 友の会会員限定
2	7月24日	日	千葉武勝氏 (研究協力員)	第 72 回自然観察会：夏山で生きもの探し	24	

■地質観察会 [全2回] ※地質部門 [吉田充・望月貴史] 担当

延べ 52 人

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	7月3日	日	山澤茂行氏 (釜石鉱山(株)代表取締役社長)	第 71 回地質観察会：釜石鉱山跡をさぐる	20	申込者：46 名
2	10月23日	日	川村寿郎氏 (宮城教育大学教授)	第 72 回地質観察会：一関市東山町の古生層を訪ねて	32	申込者：36 名

■博物館館務実習 [全7日] ※学芸第三課 [齋藤里香] 担当

延べ42人

期日		講師	演題	参加者数	備考	
1	8月18日	木 高橋廣至 吉田充 齋藤里香 近藤良子	実習にあたって	6		
2			○齋藤里香 川向富貴子		岩手県立博物館概要説明及び施設見学	収蔵庫等の見学
3			小山内透		講義「地方博物館の使命と役割」	
4	8月19日	金 小野寺俊彦 齋藤里香 丸山浩治 ○原田祐参 佐々木康裕 笠原雅史	展示・資料整理の実務 (歴史)	7	特別展広報印刷物の発送作業	
5			石川依子 小田嶋麻記子		展示解説の実務 (常設展示解説を含む)	概説 常設展示解説聴講
6			同上		展示・資料整理の実務 (歴史)	同上
7	8月20日	土 金子昭彦	事業広報の実務 (概説)	7		
8			齋藤里香		展示の実務 (概説)	
9			小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子		展示・資料整理の実務 (民俗)	民家の維持管理 綿布団の製作
10	8月21日	日 吉田充	教育普及の実務 (概説)	7		
11			佐々木康裕 草島千香子 中村紫保		たいけん教室の運営	受付と手づくり万華鏡の 工作指導
12			齋藤里香 ○川向富貴子		体験学習室の運営	魚釣りゲームの製作
13			小野寺俊彦 金子昭彦 ○齋藤里香 丸山浩治 笠原雅史 藤井忠志		事業広報の実務	博物館まつり広報印刷物 の発送作業
14	8月23日	火 鈴木まほろ	資料管理の実務 (概説)	7		
15			鈴木まほろ 渡辺修二 藤井忠志		展示・資料整理の実務 (生物)	標本作成
16			小野寺聡美		管理業務の実務 (概説)	
17	8月24日	水 赤沼英男 高橋紳一	環境保全・資料保存の実務	7	被災資料の再生	
18			小山内透 金子昭彦 丸山浩治		展示・資料整理の実務 (考古)	展示替え
19	8月25日	木 望月貴史 吉田充	展示・資料整理の実務 (地質)		企画展の撤収	
20			齋藤里香 ○川向富貴子		展示・資料整理の実務 (体験学習室)	魚釣りゲームの設営 駕籠の修繕
21			齋藤里香		実習終了にあたって	

■文化財等取扱講習会 [全3日] ※岩手県博物館等連絡協議会共催/学芸第二課 [小野寺俊彦] ほか担当

延べ89人

期日		講師	演題	参加者数	備考	
1	2月1日	水 赤沼英男	文化財等資料管理 (文化財科学)	30		
2			笠原雅史、原田祐参、佐々木康裕		文化財等資料取扱基礎 (歴史)	
3			齋藤里香、笠原雅史、原田祐参、 佐々木康裕		文化財等資料取扱基礎 (古美術)	
4			近藤良子		文化財等資料取扱基礎 (民俗)	
5			丸山浩治		文化財等資料取扱基礎 (考古)	
6			鈴木まほろ		文化財等資料取扱基礎 (生物)	
7			吉田充、望月貴史		文化財等資料取扱基礎 (地質)	
8	2月2日	木 原田祐参、笠原雅史、佐々木康裕	文化財等資料取扱基礎 (調書作成)	30		
9			日本通株式会社		文化財等取扱実技 (資料梱包)	
10			みどり光学社		文化財等取扱実技 (写真撮影)	

	期日		講師	演題	参加者数	備考
11	2月3日	金	鈴木まほろ	災害と文化財	29	
12			学芸全部門、総務課	意見交換会		

※文化財の取扱いに習熟した各部門の学芸員（小野寺学芸第二課長〔民俗〕、赤沼英男〔文化財科学〕、吉田充〔地質〕、鈴木まほろ〔生物〕、丸山浩治〔考古〕、齋藤里香〔歴史〕）が企画立案した。当事業は今年度からゼロ予算となったため有料化した。

■教員のための博物館の日 ※学芸第一課〔渡辺修二〕担当

延べ28人

	期日		講師	内容	参加人数	備考
1	8月10日	水	望月貴史・渡辺修二	展示解説・収蔵庫見学・意見交換会	3	参加者内訳 高等学校3
2	12月25日	日	望月貴史	アンモナイトのレプリカづくり	25	参加者内訳 小学校9 中学校5 高等学校4 特別支援1 中・高等学校1 大学生4
			吉田充	南部北上山地の砂金		
			丸山浩治	いろんなことが土器からわかる &学校近くの遺跡		
			佐々木康裕・原田祐参・笠原雅史	歴史資料の活用・実践方法研究		
			近藤良子・阿部茂巳氏（ボランティア）	「昔の道具とくらし」授業活用のための体験研修		
			渡辺修二	骨からわかる生物の進化		
			岩崎誠司氏・松本英和氏（国立科学博物館）	骨ホネ体験&脳容積測定体験		
			鈴木まほろ	繰り返し訪れる津波と三陸の自然（日曜講座）		
学芸員	博物館利用相談会					

※学校と博物館の連携をより一層すすめるために、今年度から開催した。

■第7回岩手県立博物館まつり

延べ3683人

	期日		総括	参加者総数	備考
1	10月16日	日	丸山浩治	3683	岩手県文化振興事業団自主事業

※【平成20年度～】当館及び事業団職員、ボランティア25名（友の会16名、愛護協会2名、学生3名、一般2名、教員研修2名）により屋内外で以下のプログラムを実施した。【屋内】まがたまづくり～おおむかしのアクセサリ～〔喫茶ひだまり〕、かせきのレプリカづくり～カラフルアンモナイト～〔教室〕、スライムどけいづくり〔実技室〕、へんしん！～むかしのコスチューム～〔体験学習室〕、まつりげんてい！かんバッジづくり〔グラントホール〕、チャレンジ！はくぶつかん、スタンプラリー〔展示室内〕、修復作業見学〔修復館〕、朗読イベント「Letters～手紙にみるドラマ」〔講堂〕、【屋外】たのしい!!むかしあそび〔曲がり屋〕、たんけん！がんせきえん・しょくぶつえん〔散策広場〕、ニュースポーツたいけん、民俗芸能公演「川又神楽」〔芝生広場〕

■たいけん教室～みんなのためそう～〔全52回〕 ※学芸第三課〔解説員〕

延べ2,061人

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
1	4月3日	日	解説員	砂絵	47	子ども27名
2	4月10日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	40	子ども21名
3	4月17日	日	解説員	こはくの玉づくり	45	子ども26名
4	4月24日	日	解説員	ばねのキツキおもちゃ	37	子ども20名
5	5月1日	日	解説員	こいのぼりース	46	子ども21名
6	5月8日	日	解説員	手づくり万華鏡	46	子ども24名
7	5月15日	日	解説員	土版づくり	28	子ども15名
8	5月22日	日	解説員	草花のそめもの	40	子ども24名
9	5月29日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	55	子ども30名
10	6月5日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	39	子ども18名
11	6月12日	日	解説員	のびちぢみしゃくとり虫	30	子ども16名
12	6月19日	日	解説員	草花のそめもの	43	子ども25名

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
13	6月26日	日	解説員	化石のレプリカ	48	子ども26名
14	7月3日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	47	子ども26名
15	7月10日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ	36	子ども20名
16	7月17日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ	46	子ども25名
17	7月24日	日	解説員	スライムであそぼう	40	子ども24名
18	7月24日	日	解説員	スライムであそぼう	49	子ども25名
19	7月31日	日	解説員	化石のレプリカ	50	子ども27名
20	7月31日	日	解説員	化石のレプリカ	43	子ども24名
21	8月7日	日	解説員	こはくの玉づくり	48	子ども25名
22	8月7日	日	解説員	こはくの玉づくり	45	子ども25名
23	8月14日	日	解説員	恐竜ぬりえカード	14	子ども7名
24	8月21日	日	解説員	手づくり万華鏡	44	子ども23名
25	8月28日	日	解説員	まが玉アクセサリ	36	子ども17名
26	9月11日	日	解説員	3Dメガネで万華鏡	43	子ども23名
27	9月18日	日	解説員	ほのぼのあかり	34	子ども19名
28	9月25日	日	解説員	縄文人のイヤリング	23	子ども14名
29	10月2日	日	解説員	ふしぎなビー玉おもちゃ	5	子ども2名
30	10月9日	日	解説員	スライムであそぼう	26	子ども13名
31	10月23日	日	解説員	葉っぱのカラフルカード	17	子ども9名
32	10月30日	日	解説員	砂絵	27	子ども15名
33	11月6日	日	解説員	手づくり万華鏡	45	子ども26名
34	11月13日	日	解説員	松ぼっくりのXmasツリー	42	子ども26名
35	11月20日	日	解説員	松ぼっくりのXmasツリー	44	子ども25名
36	11月27日	日	解説員	まゆで干支(酉)づくり	47	子ども26名
37	12月4日	日	解説員	まゆで干支(酉)づくり	51	子ども28名
38	12月11日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	37	子ども19名
39	12月18日	日	解説員	かんたん門松づくり	33	子ども18名
40	12月25日	日	解説員	たこづくり	45	子ども24名
41	1月8日	日	解説員	みずきだんご	40	子ども22名
42	1月15日	日	解説員	ほかほかカイロ	46	子ども23名
43	1月22日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	45	子ども25名
44	1月29日	日	解説員	手づくり万華鏡	49	子ども25名
45	2月5日	日	解説員	スライムであそぼう	45	子ども25名
46	2月12日	日	解説員	土器づくり	37	子ども20名
47	2月19日	日	解説員	おひなさまづくり	32	子ども17名
48	2月26日	日	解説員	おひなさまづくり	27	子ども16名
49	3月5日	日	解説員	まが玉アクセサリ	40	子ども24名
50	3月12日	日	解説員	化石のレプリカ	53	子ども27名
51	3月19日	日	解説員	石から絵の具をつくろう	40	子ども22名
52	3月26日	日	解説員	こはくの玉づくり	46	子ども27名

※【昭和56年度～】当館解説員と3名の外部講師（必要に応じて学芸職員がプログラム関連資料の出納や解説、テキスト作成・工作の助言指導、記録撮影等の補助、工作材料の入手を行う）による小学生対象ワークショップ。定員はプログラムごとに20～30名の範囲内で設定。今年度から児童生徒利活用促進のため夏季休業期間中のプログラムを午前午後の2回実施した。今年度から材料代はすべて参加者の負担としたが、数の増減に大きな影響はなかった。

■冬休みワクワク！ワークショップ ※学芸第三課〔解説員〕担当 延べ235人

	期日		講師	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	12月23日	金	解説員	化石のレプリカ	145	子ども74名、保護者71名
				松ぼっくりの正月かざり	90	子ども51名、保護者39名

※【平成24年度～】当館解説員による幼児～小学生向けワークショップ。過去3回は平日の2日間実施したが、昨年度からは祝日の1日開催とした。また、今年度の化石のレプリカはアンモナイトと三葉虫の2種類の型取りを用意した。

■冬の写生会 ※総務課 [小野寺聡美] 担当

延べ 1631 人

	期日	概要	参加者数	備考
1	12/17~1/15	展示資料や岩手山を描く	16	
2	1/21~2/12	作品を展示する	1615	

※【平成 18 年度～】当館から見える景色やマメンキサウルス等の展示資料を描いた作品を募集。指定管理者主催により実施した。岩手県文化振興事業団自主事業。

■ミュージアムシアター [全 11 回] ※学芸第三課 [佐々木康裕] 担当

延べ 273 人

	期日	運営	内容	参加人数	備考
1	4月2日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（佐藤・松尾・金濱） 運営：佐々木康裕、古川明美 協力：釜石市教育委員会、一般社団法人日本鉄鋼連盟	①近代製鉄発祥 150 周年記念ものづくりの灯を永遠に ②鉄腕博士草野仁の鉄学しよう！	21	※特別展関連
2	5月7日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（佐藤・松尾・金濱） 運営：吉田充、古川明美	①アラジンと魔法のランプ ②シンデレラ ③ピノキオ	28	
3	6月4日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（松尾・金濱） 運営：齋藤里香、古川明美	山下清物語裸の大將放浪記	13	
4	7月2日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（佐藤・金濱） 運営：近藤良子、古川明美、川向富貴子	①森のなかまたち ②からすのパンやさん ③どんぐり森へ ④いじわる狐 ⑤七夕さま	30	
5	8月6日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（松尾・金濱） 運営：丸山浩治、古川明美 ※協力：千厩ライブラリー	夏休みの地図	14	
6	10月1日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：望月貴史	①オズの魔法使い ②不思議の国のアリス ③お月様とうさぎ ④おじいちゃんはおぼくのヒーロー	32	
7	11月5日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（松尾・金濱） 運営：川向富貴子、古川明美 協力：一関ライブラリー	映像で振り返る僕らの昭和	5	
8	12月3日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（松尾・金濱+女性 1） 運営：吉田充、古川明美	①神様がくれたクリスマスツリー ②年神様とお正月 ③きもだめしのぼん ④くるみ割り人形 ⑤三匹の子ぶた	42	
9	1月7日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：近藤良子、齋藤里香、古川明美	①すずめどんのおにたいじ ②いっすんぼうし ③うしわかまる ④したきりすずめ ⑤ゆきおんな	58	
10	2月4日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：近藤良子	サクラサク	23	
11	3月4日	土 映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会（松尾・金濱） 運営：古川明美、川向富貴子 協力：江刺ライブラリー、水沢ライブラリー	①みんな生きている（30分／ドラマ／一般） ②3. 11 東日本大震災から学ぶもし今、地震が起きたら（19分／実録／中学生～） ③地震・津波から生き延びる 正しい知識と行動（16分／実録／小学生～）	7	※震災関連

※【平成 14 年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は 16 ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。映像素材は、主として岩手県内のライブラリー（江刺・水沢・千厩・一関）、一関市教育委員会や（社団）日本鉄鋼連盟から借用した。

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	7月1日	金	原田祐参	岩手県立千厩高等学校	私が出会った岩手のスポーツ人 ～スポーツ博覧会いわてから～	124名	教員7+生徒117
2	7月21日	木	佐々木康裕 笠原雅史	盛岡第三高等学校	刀剣について・時代装束着用体験	58名	3回開催
3	7月22日	金	佐々木康裕	盛岡第三高等学校	古代の銭貨について考える	58名	3回開催
4	7月26日	火	鈴木まほろ 渡辺修二	盛岡市教育研究会理科部会	帰化植物と虫などの講話と観察会	8名	教員に対する研修会
5	8月4日	木	鈴木まほろ 渡辺修二	奥州市立江刺第一中学校	理科教育に係るフィールドワークと当館見学	17名	教員2+生徒15
6	8月24日	水	渡辺修二	盛岡市立太田小学校	水生生物調査 水に棲む生き物 ～身近な環境を考えよう～	15名	教員2+生徒13
7	8月24日	水	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	女袴の製作講習会（共同プロジェクト【教員向け技術指導講習】）	1名	教員1
8	9月2日	金	鈴木まほろ	岩手県立杜陵高等学校	文化財レスキューとその後	163名	教員40+生徒123
9	9月12日	月	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	近代女学生装束についての概要説明（共同プロジェクト【3学年女袴製作】）	4名	教員1+生徒3
10	10月25日	火	笠原雅史	高教研地歴・公民部会	高等学校「日本史」における地域学習の意義と活用の方法	38名	教員のみ
11	10月28日	金	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	近代女学生装束についての概要説明（共同プロジェクト【2学年着物製作】）	17名	教員3+生徒14
12	11月28日	月	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	（共同プロジェクト【3学年女袴製作】の進捗状況確認）	4名	教員1+生徒3
13	12月23日	金	佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	中世南部氏をめぐる謎	22名	教員2+生徒20
14	12月24日	土	佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	中世南部氏をめぐる謎	53名	教員1+生徒52
15	1月6日	金	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	女袴の製作講習会（共同プロジェクト【教員向け技術指導講習】）	1名	教員1
16	1月9日	月	小野寺俊彦	花巻市明戸公民館	小正月の伝承行事「みずきだんご作り」	57名	未就学児・小学生9+一般48
17	1月23日	月	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	（共同プロジェクト【3学年女袴製作】の進捗状況確認）	4名	教員1+生徒3
18	1月27日	金	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	（共同プロジェクト【1学年紫根染作品製作】の進捗状況確認）	26名	教員1+生徒25
19	2月14日	火	川向富貴子	岩手県立平舘高等学校	共同プロジェクト完成披露・引渡式（感謝状贈呈式）	75名	教員5+生徒70
20	3月17日	金	佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	元号から考える日本史 —建武改元時の陸奥国を題材として—	27名	教員1+生徒26
21	3月18日	土	佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	元号から考える日本史 —建武改元時の陸奥国を題材として—	47名	教員1+生徒46

※当館が児童生徒対象事業を実施する教育機関に限り講師派遣に係る実費を負担したもの

Ⅲ講演会・講座に係る職員派遣 ※学芸第三課 [丸山浩治] 担当

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	4月24日	日	鈴木まほろ	住田町教育委員会	森の達人講座	30名	
2	5月11日	金	原田祐参 笠原雅史	盛岡地区高校PTA連絡協議会	「私が出会った岩手のスポーツ人」 「大島高任と釜石鉱山」	約50名	
3	6月12日	日	赤沼英男	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト	大津波プロジェクト 第1回ワークショップ	39名	山梨県立博物館
4	7月15日	金	笠原雅史	盛岡の歴史を語る会	大島高任と釜石鉱山について	約130名	
5	8月2日	火	赤沼英男 鈴木まほろ	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト	大津波プロジェクト 第2回ワークショップ	30名	陸前高田市立博物館
6	8月9日	金	笠原雅史	岩手県教育委員会生涯学習文化課総括課長	「岩手の世界遺産」教員現地研修会	20名	生涯学習文化課3名

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
7	8月22・23日	月・火	川向富貴子	宮古市・常安寺	修復仏画（地獄絵）の復元・開眼の立ち合い	*	
8	8月28日	日	藤井志志	環境省東北地方環境事務所長	日本のクマゲラ・クマゲラ研究小史を中心として-	54名	十和田八幡平国立公園パークボランティア及び環境省職員
9	9月1日	木	丸山浩治	世界考古学会議第8回京都大会実行委員会	世界考古学会議第8回京都大会 Reading society from volcanic ash: 10th century volcanic eruptions and the northern Tohoku region	30名	
10	9月14日	水	笠原雅史	資源・素材2016（盛岡）大会実行委員会	資料に見る大島高任	約120名	
11	9月27日	火	金子昭彦	西松園ひまわりクラブ	「縄文時代の話」	25名	
12	10月2日	日	藤井志志	成瀬ダム湛水域周辺自然調査団	クマゲラの生態レクチャー	11名	
13	10月5日	水	高橋紳一	盛岡市中央公民館	被災した文化財のレスキューと修復について	20名	
14	11月27日	日	赤沼英男	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト	大津波プロジェクト支援シンポジウム	110名	陸前高田市コミュニティホール
15	12月17日	土	渡辺修二	盛岡広域振興局	森里川フェスタセミナー・カワシンジュガイについて	30名	
16	1月7日	土	丸山浩治	北上市教育委員会	十和田火山の噴火と北上の遺跡—平安時代を中心に—	91名	
17	1月20日	金	赤沼英男	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト	大津波プロジェクト 第3回ワークショップ	32名	石垣市立八重山博物館
18	2月2日	木	赤沼英男 鈴木まほろ	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト	大津波プロジェクト 第4回ワークショップ	25名	東京藝術大学
19	2月22日	水	渡辺修二	滝沢市（文化財調査委員会議）	滝沢市のカワシンジュガイについて	10名	
20	2月27日	月	渡辺修二	岩手大学三陸研究センター	安家川河川環境調査報告会	30名	
21	3月12日	日	鈴木まほろ	金ヶ崎町千貫石地区生物多様性支援隊	マツムシソウのはなし	78名	

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担したもの。または共同プロジェクトとして実施したもの。

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示等を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記のとおりである。合計で98校（昨年106校）、3,771人（昨年3,947人）が来館した。学習利用での来館者数は前年度をやや下回ったが、来館した施設数で見ると幼稚園、保育園、小学校、高等学校の4種において前年度を若干ながら上回った。来館者数の減少理由については全国的な児童生徒数の減少傾向との相関関係、出前講座や教材貸出など児童生徒が直接来館しなくても利用できるサービスの充実なども背景として考えられる。一方、広報活動の継続や工夫、展示内容の工夫や解説シート（試用版）の作成など学校団体を館内に呼び込むための施策を行ってきており、そのことが来館施設数微増の要因とも推測される。

表（2）－2 平成28年度学習利用状況一覧

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
小学校	1	5月6日	岩手県	小	久慈市立小袖小学校	校外学習	3	10	13
	2	5月26日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	5	36	41
	3	6月10日	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	遠足	3	54	57

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
小学校	4	6月10日	岩手県	小	釜石市立栗林小学校	遠足	2	15	17
	5	6月15日	岩手県	小	岩泉町立浅内小学校 二升石小学校	修学旅行	5	11	16
	6	6月17日	岩手県	小	一関市立涌津小学校	修学旅行	3	24	27
	7	6月17日	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	修学旅行	5	64	69
	8	6月22日	宮城県	小	仙台市立松森小学校	修学旅行	5	42	47
	9	6月24日	岩手県	小	宮古市立山口小学校	その他	4	41	45
	10	6月24日	岩手県	小	宮古市立花輪小学校	修学旅行	4	22	26
	11	7月1日	岩手県	小	岩泉町立安家小中学校	校外学習	3	10	13
	12	7月5日	岩手県	小	盛岡市立玉山小学校	校外学習	1	6	7
	13	8月30日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	社会科	2	52	54
	14	9月13日	岩手県	小	滝沢市立滝沢小学校	遠足	17	145	162
	15	9月13日	岩手県	小	盛岡市立大新小学校	社会科	4	81	85
	16	9月16日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	4	12	16
	17	9月21日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	遠足	7	103	110
	18	9月21日	岩手県	小	陸前高田市立矢作小学校	校外学習	5	32	37
	19	9月21日	岩手県	小	釜石市立釜石小学校	校外学習	3	45	48
	20	9月23日	岩手県	小	奥州市立若柳小学校	遠足	2	20	22
	21	9月23日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	教科(社会科)	8	154	162
	22	9月28日	岩手県	小	普代村立普代小学校	遠足	4	39	43
	23	9月28日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	教科(生活科)	3	35	38
	24	9月29日	岩手県	小	陸前高田市立米崎小学校	実習	7	61	68
	25	9月30日	秋田県	小	鹿角市立十和田小学校	校外学習	3	50	53
	26	9月30日	岩手県	小	奥州市立南都田小学校	校外学習	3	31	34
	27	10月7日	岩手県	小	滝沢市立一本木小学校	教科(総合学習)	2	20	22
	28	10月26日	岩手県	小	二戸市立中央小学校	校外学習	4	45	49
	29	10月27日	岩手県	小	紫波町立彦部小学校	教科(社会科)	2	11	13
	30	11月1日	岩手県	小	滝沢市立滝沢第二小学校	校外学習	6	90	96
	31	11月1日	岩手県	小	盛岡市立山王小学校	教科(社会科)	2	26	28
	32	11月2日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	社会科	2	41	43
	33	11月2日	岩手県	小	盛岡市立城内小学校	社会科	2	5	7
	34	11月4日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	教科(社会科)	4	72	76
	35	11月9日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	校外学習	7	171	178
	36	11月11日	岩手県	小	紫波町立佐比内小学校	教科(社会科)	1	4	5
	37	11月22日	岩手県	小	八幡平市立寺田小学校	見学(校外学習)	3	13	16
	38	12月6日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	見学(校外学習)	4	37	41
	39	12月16日	岩手県	小	盛岡市立城南小学校	見学	3	57	60
	40	2月15日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	教科(社会科)	4	45	49
	41	2月16日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	見学(校外学習)	2	42	44
	42	3月1日	岩手県	小	盛岡市立小出小学校	社会科	2	11	13
	43	3月3日	岩手県	小	岩手町立久保小学校	見学(校外学習)	2	4	6
	合計						167	1889	2056

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
中学校	1	5月25日	青森県	中	弘前市立第二中学校	自主研修	1	6	7
	2	6月10日	岩手県	中	黒石野中学校 北杜分校	遠足	20	11	31
	3	7月5日	岩手県	中	滝沢市立滝沢第二中学校	職場体験	0	1	1
	4	7月6日	岩手県	中	滝沢市立滝沢第二中学校	職場体験	0	1	1
	5	7月7日	岩手県	中	北上市立東陵中学校	校外学習	5	49	54
	6	7月8日	岩手県	中	北上市立北上北中学校	校外学習	4	47	51
	7	8月4日	岩手県	中	奥州市立江刺第一中学校	見学	2	14	16
	8	8月31日	北海道	中	上ノ国町立上ノ国中学校	修学旅行	6	50	56
	9	9月23日	岩手県	中	宮古市立河南中学校	校外学習	5	67	72
	10	10月20日	東京都	中	桐朋中学校	修学旅行	2	42	44
合計						45	288	333	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
高等学校	1	7月14日	秋田県	高	秋田県立花輪高等学校	研修	5	135	140
	2	8月4日	宮城県	高	宮城県仙台三桜高等学校	校外学習	1	5	6
	3	8月1日	岩手県	高	岩手県立平舘高校	博学連携プロジェクト	1	3	4
	4	10月20日	岩手県	高	岩手県立岩泉高等学校	総合的な学習	17	141	158
	5	12月13日	岩手県	高	岩手県立遠野緑峰高校	校外学習	2	9	11
	6	2月24日	岩手県	高	岩手県立山田高等学校	総合的な学習	4	31	35
	7	3月4日	岩手県	高	岩手県立高田高等学校	校外学習	2	24	26
	8	3月7日	岩手県	高	明桜高等学校(秋田)	校外学習	1	3	4
	9	3月9日	岩手県	高	岩手県立沼宮内高等学校	職場訪問	0	1	1
	10	3月18日	岩手県	高	岩手県立宮古商業高校	研修	2	23	25
9						合計	35	375	410

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
大学・専門学校	1	4月9日	岩手県	大	岩手大学人文社会科学部地域政策課程	研修	7	89	96
	2	4月19日	青森県	大	八戸工業大学システム情報工学科	施設見学	5	60	65
	3	7月3日	山形県	大	東北芸術工科大学	研修	6	28	34
	4	9月14日	東京都	大	立教大学学芸員課程	見学実習	4	24	28
合計						22	201	223	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
特別支援学校	1	5月19日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	校外学習	3	5	8
	2	10月6日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	園外学習	1	1	2
	3	10月21日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	校外学習	6	5	11
	4	2月17日	岩手県	特	岩手県立青松支援学校	教科(社会科)	2	2	4
	5	2月23日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	教科(社会科)	1	2	3
合計						13	15	28	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
保育園	1	5月27日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	33	36
	2	6月7日	岩手県	保	愛育園	園外学習	5	51	56
	3	6月23日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	2	10	12
	4	7月22日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	3	16	19
	5	7月28日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	12	15
	6	7月29日	岩手県	保	愛育園	園外学習	7	7	14
	7	8月19日	岩手県	保	MH ナーサリー	園外学習	4	21	25
	8	9月28日	岩手県	保	愛育園	園外学習	3	6	9
	9	12月15日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	9	12
	10	1月11日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	11	14
	11	1月12日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	4	11	15
	12	3月8日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	10	13
合計						43	197	240	

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
幼稚園	1	5月13日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	5	32	37
	2	6月10日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外保育	3	31	34
	3	6月28日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	園外学習	3	21	24
	4	7月21日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	見学	11	31	42
	5	7月26日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	園外学習	3	18	21
	6	8月3日	岩手県	幼	のぞみこども園	園外学習	7	51	58
	7	11月4日	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	園外学習	2	10	12
	8	11月11日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	収穫祭・見学	2	17	19
	9	11月15日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	遠足	7	35	42

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
幼稚園	10	12月20日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	園外学習	3	23	26
	11	1月19日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	総合的な学習	3	22	25
	12	3月3日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	総合的な学習	3	21	24
	13	3月8日	岩手県	幼	青葉幼稚園	遠足	4	93	97
	14	3月22日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	2	18	20
合計						58	423	481	

平成28年度集計

※下見を含まない

	県内	秋田	宮城	青森	他	合計
特	5					5
小	38	1	4			43
中	7			1	2	10
高	8	1	1			10
大	1			1	2	4
幼	14					14
保	12					12
合計	85	2	5	2	4	98校

のべ3771人

(イ) 教材貸出

昨年度は11件54点の貸出を行ったが、今年度は9件42点の貸出を行った。内訳は以下のとおりである。小学校、中学校への貸出が主であった。考古資料や小学校「社会科」の「昔の暮らし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板など民俗資料の他、平安時代の衣装（水干、小桂、白拍子装束）などが人気であり、この傾向は今年度も同様であった。また、本年度は視聴覚教材の貸出が目立った。

表(2)-3 平成28年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
4/13	紫波町立上平沢小学校	6	縄文土器(2) 石器 石包丁 弥生土器(2)
5/27	盛岡市立黒石野中学校	1	描かれた参勤交代 (DVD)
6/21	(公社)日本アイソトープ協会茅記念滝沢研究所	3	岩手の文化財 (DVD) 白亜紀へのタイムトラベル (DVD) よみがえる文化財 (DVD)
7/6	盛岡白百合学園高等学校	1	時代装束
8/31	(公社)日本アイソトープ協会茅記念滝沢研究所	2	岩手の文化財 (DVD) 白亜紀へのタイムトラベル (DVD)
8/31	奥州市教育委員会歴史遺産課世界遺産登録推進室	5	ゴールドパン
9/1	岩手県立児童館 いわて子どもの森	11	岩石・鉱物類
2/7	盛岡白百合学園小学校	6	炭火アイロン 黒電話 カラー電話 そろばん(2) ランプ
2/12	盛岡市立青山小学校	7	石臼 アイロン 洗濯板と金盥 ランプ 電話機(2)

(ウ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

平成28年8月18日(木)～8月25日(木) (22日(月)休館日除く7日間)

盛岡大学3名、岩手大学2名、八洲学園大学1名、山形県立米沢女子短期大学1名 計7名

ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は5件6名の申込があった。(27年度は9件14名)また、岩手県立大学、岩手大学、盛岡大学の三大学連携インターンシップの一環で盛岡大学から2名の学生が5日間のインターンシップに参加した。

表(2) - 4 平成28年度実施職場体験参加校一覧

実施日時	所属校	人数	体験内容
7/5~6	滝沢市滝沢第二中学校	1	資料整理
10/5~6	青松支援学校	1	資料整理、体験学習室整備
10/8~10, 10/15, 16	盛岡大学	2	資料整理、体験学習室資料作成、博物館まつり対応
3/9	沼宮内高等学校	1	職場訪問
3/24~3/30	岩手大学	1	資料整理、イベント対応

表(2) - 5 平成28年度実施教職10年研修ボランティア受け入れ先一覧

実施日	所属校	人数	研修内容
10/16	盛岡市立仙北中学校	1	博物館まつりボランティア
10/16	岩手県立盛岡第一高等学校	1	博物館まつりボランティア
合計		2	

エ. 問合わせ受付

日常的に学芸員が対応する問合わせについて、集計を行っている。計画されている事業にかかわるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に係わるものも含んでいる。

表(2) - 6 平成28年度問い合わせ受付状況

部門	件数	問合わせ方法	件数	主な対応内容
地質	33	来館	13	拾った石(化石・岩石)が何か見てほしい 早池峰山の地質について 中生代の化石展示について 恐竜の骨格標本について 竜の口層で産出した鱗脚類化石について 岩手県の地質図がほしい
		電話	18	当館蔵の化石について 日本地質学会が制定した県の石について 化石の保存方法と寄贈について 化石採集について 岩泉町産のアンモナイトについて
		FAX、メール、手紙、その他	2	企画展の見どころについて 国立科学博物館とのコラボ展示の内容について
生物	114	来館	30	この写真の鳥は何か 環境アセスに関するヒアリング 八幡平国立公園に関するヒアリング 環境保全対策ヒアリング 温暖化と生物分布について 防鹿柵について チョウについて 標本撮影 古植生について 津波について カイエビ同定
		電話	22	この写真の鳥は何か 画像提供依頼 キツツキについて イヌノフグリの保全について セリ科同定依頼 剥製寄贈打診 きこの写真同定依頼 サガワハナワラビの学名について 白花のアオモリアザミの学名 菌類標本閲覧
		FAX、メール、手紙、その他	63	昆虫写真同定依頼 シロスミレ標本閲覧 写真による植物同定 ギンランについて 希少種情報 ニッコウキスゲについて 桜情報 水草写真同定 オクノミズコナラ標本画像提供依頼 オクノミズコナラ初出文献について 植物形態学用語について
考古	8	来館	3	小松洞穴の調査成果について 紫波町山屋館経塚と比爪俊衡について
		電話	4	人骨の年代を調べる方法について 鉢ノ木女神という所にある洞窟の名前を知りたい 住田町内の遺跡について 縄文時代に関する研究動向について
		FAX、メール、手紙、その他	1	豊岡遺跡出土土偶の背面図柄について

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
歴史	88	来館	15	九戸政実について 八戸藩の成立について 甲冑の製作年代について 福島県二本松龍泉寺の聯について 私残記について
		電話	53	前九年合戦について 後三年合戦について 斯波氏について 南部氏について 特別展について 岩手の懸仏について 釜石御山全絵図について 戊辰戦争での従軍者数について 南昌山周辺の川について 資料寄贈について
		FAX、メール、手紙、その他	20	特別展について 岩手県南米開拓団について 戊辰戦争について 資料寄贈について 銅像小観音立像について
民俗	152	来館	35	大船渡市の婚礼行事「道化」、麻の栽培、冷凍庫が一般化する以前の氷の入手方法、戦前のオープンリールフィルムのデジタル化、岩手県で最も多い宗派、天児・這子の来歴、紫根染の歴史など
		電話	69	チャグチャグ馬コの小荷駄装束と民芸品、花巻市・延命寺地藏堂宝物、太鼓踊り系と幕踊り系の分布、凧の作り方、陸羽 132 号の品種改良、郷土玩具の産地同定、南部牛追い歌に出てくる地名など
		FAX、メール、手紙、その他	48	豆類の畦畔栽培、獅子頭の受注業者、神仏像の鑑定、小正月の来訪者原稿監修、林業遺産、萬鐵五郎と岩手焼の関係性、熊包丁の作者、石碑の展示法、えんぶり、コウキリコなど
文化財科学	49	来館	2	錆化した釘の保存方法について、砂鉄の化学組成が鋳物製造に与える影響について
		電話	31	被災文化財再生に係る取材、仏具に発生したカビの除去方法、絵画資料の脱塩、繊維資料の色材料の同定法、脱脂に使用する中性洗剤の種類、赤外線カメラによる墨書の文字の判読、紙製資料に残留する塩素の検出方法について
		FAX、メール、手紙、その他	16	7世紀以前の鉄器の分析例、カビ培養について、吸湿紙によるアクリル画の脱塩について、修復館を含む当館の見学について、被災資料の調査について、朝倉氏遺跡出土銭貨組成について、リードオルガンのメンテナンスについて
合計	444			

(3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から平成 28 年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。

また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第 34 号のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。上記研究テーマの中には、外部機関の助成金を受け進められたものもあった。考古学部門では岩手県教育委員会からの委託による前平泉文化の研究を、文化財科学部門では外部機関から申請された研究受託を実施した。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門 3 テーマ、生物部門 6 テーマ、考古部門 3 テーマ、歴史部門 5 テーマ、民俗部門 4 テーマ、文化財科学部門 3 テーマで調査研究活動が推進された。

表(3)-1 平成 28 年度 調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月貴史 吉田充	主として南部北上帯に属する地域から産出する岩石や化石の採集・調査・標本登録を行った。また、これまでの調査結果を併せて平成 28 年度地質部門企画展で展示をした。 砂金の産出する母岩の共通性を調べるために、田瀬湖周辺で調査を行った。母体変成岩と宮守オフィオライトは沈み込み帯付近で形成されたもので、資料分析からはともに変質した岩石が多く、金元素を含む鉱床の存在を推測できた。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	吉田充 望月貴史	焼石岳火山群の噴火史の解明や北上低地帯西縁付近の地形区分に有効である黒沢尻火山灰層の山形軽石層の調査を行った。本軽石層上部層は今のところ金ヶ崎町西縁付近の丘陵を横切る道路切割でのみ観察でき、約10枚の薄い層で構成されることを確認した。継続調査を行いながら、資料分析と分布範囲調査から噴火の性格や地形対比を行いたい。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月貴史	陸前高田市矢作町飯森の中部ペルム系上八瀬統の層序学的調査と、そこで産出する動物化石群の採集と調査を実施した。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	青森県白神山と秋田県森吉山のブナ林におけるクマゲラ個体群の生態調査及び生息鳥類の調査を実施した(藤井)。早池峰山北面の門馬登山道沿いのブナ帯を含む森林において、網羅的な植物相調査を行った(鈴木)。盛岡市及び一関市の森林及びその周辺地域でクモ相調査を行った(渡辺)。
	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマゲラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	「mt. DNAを指標としたクマゲラの遺伝的多様性について」という課題で、弘前大学農学生命科学部生物学科との共同研究を実施してきた。その結果、本州産のクマゲラの遺伝的多様性は、北海道産に比べて低いことが判明した。さらに、秋田県森吉産の1サンプルからは、クアンガイ～雲南～チベットに生息するクマゲラの隔離的個体群(別亜種) <i>Dryocopus martius khamensis</i> の系統に近いDNAが検出された。今後ますますの森吉産サンプル採集が必要とされる。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	岩手県初記録のニューナイスズメ <i>Passer rutilans</i> の繁殖活動とノハラツグミ <i>Turdus pilaris</i> の初記録を確認し、岩手県産鳥類目録に追加登録するとともに、当館刊行の調査研究報告書第34号に執筆投稿した。
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺修二	カワシンジュガイ: 滝沢市葦桶沢で数百からなる個体群を数か所で発見した。8月の台風10号による増水後でも残ったコローニーを調査し、河畔林によるカバーが増水時での生息地保護に重要であることが推測された。 クモ: 県内未記録種(ホラヒメグモ2種、マシラグモ、コアシダカグモ)を採集した。ホラヒメグモ、マシラグモについては未記載種である可能性が高い。その他、ホラヒメグモの繁殖行動の様子を動画撮影した。 2014年から2016年までのマダラヒメグモ(外来種)採集記録について、当館刊行の調査研究報告書第34号に執筆投稿した。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする生態系に関する研究	鈴木まほろ	岩手県植物誌調査会との合同調査により、岩泉町で2015年に発見し、東北地方初記録となったフォーリーガヤについての短報が植物研究雑誌91巻2号105-106頁に掲載された(4月)。2016年に行った植物相調査により記録された絶滅危惧植物については、場所・個体数などを県自然保護課へ報告した。早池峰山河原の坊・小田越・門馬登山道において、ニホンジカによる植物の食痕を調査し、結果を東北森林管理局および県自然保護課などに報告した。東北地方太平洋沖地震津波の浸水域に発生した湿地の植物相について、網羅的文献調査と分析を行った論文が、専門書 J. Urabe and T. Nakashizuka (eds), <i>Ecological impacts of tsunamis on coastal ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake</i> (Springer) に掲載された(p.361-382, 11月刊行)。また、東北地方太平洋沖地震と津波による自然界への影響について、研究論文等の文献調査を行い、これに基づいてテーマ展「大津波と三陸の生き物」を製作・展示するとともに、内容を抜粋したガイドブックを発行した。
	県内の植物相の研究	鈴木まほろ	岩手県植物誌調査会と合同で、県内6カ所で網羅的な植物相調査を行い、標本を作成・整理した。また、当館所蔵の植物標本をもとに『岩手県産維管束植物チェックリスト』を編集・発行した(8月)。	

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	小山内透 金子昭彦 丸山浩治	鳥畑壽夫コレクション・草間俊一コレクションについては、収蔵目録の発刊に向け、資料調査と整理を継続した。小岩末治コレクションについては、「収蔵目録考古Ⅶ 小岩末治コレクション その1」を刊行しており、「その2」の発刊に向け、残る資料の写真・古文書等の資料調査・整理を継続した。
	先史時代の考古学的研究	縄文時代のアクセサリ研究	金子昭彦	縄文時代のアクセサリ研究は、これまで、特定するのが難しいのに飾る部位で分類するなど、無理を重ねてきた。そこで、実態に合わせ考古学で検討できるように、意匠型、普及型、消滅性素材をキーワードにして新たな分類を検討し、東北地方北部の耳飾りは、縄文時代を通じて土・石製品が基本であることなどがわかった。その成果の一部を、日本考古学協会 2016 年度弘前大会で発表した
	歴史時代の考古学的研究	古代集落の研究	丸山浩治	<ul style="list-style-type: none"> ・北東北3県の To-a 及び B-Tm 堆積堅穴建物を集成し、堆積様相による時期分類を行った。 ・北上市国見山廃寺跡（国史跡）で検出された遺構と十和田 a テフラとの関係について考察し、同市遺跡報告会・講演会で発表した。
		岩手の古代鉄生産の研究	小山内透	復興関連調査によって、事例が増えた沿岸部の製鉄遺跡を対象に、製鉄遺構について調査を行い、構造変遷の傾向を検討した。また、今年度発掘調査が行われた山田町高寺沢Ⅱ遺跡、野田村上代川遺跡、宮古市高根遺跡の製鉄遺構の現地調査を行った。報告書が未刊の遺跡が多いことから、今後随時報告されるデータを基に、個別遺構の具体について精査し、傾向の検討結果について検証を行い、検討を継続する。
		平泉文化についての研究	小山内透 金子昭彦 丸山浩治	古代寺院の可能性のある金ヶ崎町観音寺廃寺跡（町史跡）の詳細測量調査を行った。遺跡東側の約 20,000 m ² を調査し、塚状の高まりや土塁、平場、方形の区画痕跡などを確認した。
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究	佐々木康裕	次年度開催予定のテーマ展「中世の南部氏と糠部」に向けた基礎研究として、中世の諸史料および近世編纂史料にみえる中世南部氏の動向について、具体的な事例収集とその考察を行った。その成果の一部については、県博日曜講座や出前講座で公表した。
	近世史の研究	盛岡藩政の研究	原田祐参	記載内容の解説を行い、内容の整理を行った。
	前近代における美術工芸の研究（古美術）	藩政期の美術工芸の研究	齋藤里香	・19世紀の岩手を描いた絵画について調査を行い、成果をテーマ展及び県博日曜講座で公表した。
	近代・現代史の研究	明治・大正期の岩手県についての研究	笠原雅史	<ul style="list-style-type: none"> ・橋野鉄鉱山や大島高任に加え那珂梧楼について調査を行い、成果の一部を特別展および新聞記事、講演、教員研修会等で公表、普及活動を行った。 ・調査範囲を昭和期（戦前）まで拡げて調査し、展示や日曜講座等で成果を公表した。
		昭和期の商業芸術についての研究	原田祐参	当館寄託のポスター及び商業用のパッケージ等について、制作年代の確認を行うとともに、その時期に応じた作品の特徴の変遷について考察を行った。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄贈された陸前高田市猫淵神社旧蔵絵馬の整理分類を行った。その成果はトピック展「絵馬に描かれた猫」で公表した（小野寺・近藤）。 ・ 寄贈されたこけし 30 点及び人形 35 点の整理分類を行った（小野寺・近藤）。 ・ 寄贈された岩手県助産師会収集資料 5 件 57 点の整理分析と、昭和時代に活動した助産師からの聞き取りを行った。その成果は簡易報告書にまとめ、同会へ寄贈した。来年度も助産師会と連携し調査を行う予定である（前年度からの継続／小野寺・川向）。 ・ 寄贈された及川全三関係ホームスパンの資料分析と盛岡友の会生活学校草創期の聞き取りを行った（小野寺・川向）。 ・ 寄贈申込みのあった切手 551 種 2503 点の整理分類を行った（小野寺・川向）。 ・ 花巻市総合文化財センターと連携し、寄贈申込みのあった菅原隆太郎関係資料を分析した（小野寺・川向）。 ・ 宮古市・常安寺の依頼により修復した地獄絵の開眼に立ち合い、下絵と推定される佐々木藍田画との比較検討を行った。その成果は県博日曜講座で公表した（前年度からの継続／小野寺・川向）。 ・ 岩手県立図書館蔵「岩手学事彙報」等から明治時代の女学生装束を調べた。その成果は県立平舘高等学校との共同プロジェクトに活用した（小野寺・近藤・川向）。
民俗	無形民俗資料に関する研究	民俗芸能等に関する調査研究	小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八戸えんぶりについての現地調査を行い、岩手のえんぶりとの比較検討を行った。（小野寺・近藤）。 ・ 岩手県農林水産部農業普及技術課の依頼により、主に年中行事や民俗芸能を調査し、月刊「農業普及」に毎月「ムラの伝統」を執筆した（小野寺・近藤）。 ・ 北上山地民俗資料館の仲介により、旧川井村小国地区にてヒエとアワの栽培調整に係る聞き取りを行った。また、二戸市似鳥八幡神社サイトギに係る関係祭具とオコモリ（五穀）の現地調査を行った。岐阜県郡上市の八幡地区にてヒエの黒蒸し法・同市戒仏地区にて粟倉さまの現地調査を、國學院大學及び東京都立中央図書館にて雑穀と特殊神饌に係る文献調査を行った。その成果は吉川弘文館『日本の食文化』等へ執筆中（小野寺・川向）。 ・ 平成 29 年度地域展の開催に先立ち、大船渡市の明土権現舞と本町権現舞、たらじがねに立ち合い現況確認を行った。また、館蔵森口多里 coll. のうち沿岸地域で撮影した画像の整理分析を行った。その成果はトピック展「戦後写真にみる海辺のくらし」で公開した（小野寺・近藤・川向）。 ・ 上宿大乘神楽の稲荷舞、二子鬼剣舞狐舞について現地調査を行い、動物にまつわる民俗芸能について情報収集を行った（近藤）。 ・ 国立劇場及び盛岡市大日堂縁日にて早池峰岳神楽の現地調査を実施、その成果は読売新聞コラム及び國學院大學学報で公表した（近藤・川向）。 ・ 依頼のあった上野地区子安講祭祀像と個人宅おしらさま神像に係る調査を行い、その成果を所蔵者へ報告した。併せて、二戸市二戸歴史民俗資料館と合同で関連する年中行事の聞き取りと立ち合いを行った（近藤・川向）。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
民俗	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤良子	民家の活用事業について、他民家の実績を調査しながら、わら細工実演を4月～10月の第2日曜に実施し、昔の手仕事についての広報活動と研究に努めた。また、民家の開放的な作りを活用し、「岩手の風景」と題したアマチュア写真家による写真展を8月に開催した。 民家の保存については、茅屋根の葺き替え工事にあわせ、その過程等についてトピック展「民家の紹介と茅葺」で公表し、現地解説会を行った。また、工事過程についても記録収集に努めた。
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	省エネを意識した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼英男 高橋紳一	収蔵庫、展示場フロア及びケース内に温湿度記録計(データロガ)を設置し、施設内温湿度変動に関する調査を行い、現在の空調システムの現状と温度調整対策について検討した。併せて、公開承認施設に求められる温湿度基準値の維持に努めた。
	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男	北陸・関東・東北地方・北海道の遺跡から出土した鉄器の金属考古学的調査結果を集成し、前近代の鉄・鉄器生産技術の変遷と原料鉄及び製品の流通状況の変遷解明を図るための基礎資料作成を進め、一部成果を岩手県立博物館研究紀要第34号で発表した。2013年トルコ共和国カマン・カレホユック遺跡から出土した鉄関連資料の補足調査を実施し、中央アナトリア高原における前期青銅器時代の鉄生産状況について、公益財団法人アナトリア考古学主催、第27回トルコ調査研究会(学習院大学, H29.3.5)で報告した
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男	これまでに実施してきた、福井県一乗谷朝倉氏遺跡出土銭貨の自然科学的調査結果の集成を進め、地金の組成に形態に基づく分類結果をまとめた。
		土製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男 高橋紳一	土器の組成分類法の一つとして、製作に使用された素材に混和された各種鉱物の化学組成とりわけ火山ガラスの化学組成をEPMAで分析し、化学組成比から資料分類する方法を検討した。
	文化財の保存修復に関する研究	前近代における彩色・塗膜技法に関する研究	赤沼英男	中世に大陸から伝来した漆工芸品とほぼ同時代に比定される列島内出土漆器の下地調整技法を調査し、その特徴をまとめ、大陸から舶載された漆器と列島内で製作された漆器の塗膜断面構造解析結果に基づく下地調整技法の推定を行った。成果の一部を保存修復学会(奈良大学, H28.6.5)で報告した。
		土製文化財の保存処理方法の研究	赤沼英男 高橋紳一	予備調査のため提供された縄文土器片を使用し、構成鉱物を同定するための塗膜断面構造解析法の確立を進めた。
	海水損資料の安定化処理法および修理技術に関する研究	赤沼英男 高橋紳一	海水損した紙製資料から発する異臭の原因とその対処法について東京文化財研究所と連携して調査し、その成果を保存科学第56号に報告した。被災した写真関係資料の安定化処理、とりわけ脱塩の有効性について調査し、その結果を第38回保存修復学会(東海大学, H29.6.25)で発表した。	

表(3)ー2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
生物	鳥獣剥製標本製作	以下の標本7点を委託製作した。カンムリカイツブリ、イソヒヨドリ(雌)、アオゲラ(雄)、クロジ(普通種)、クロジ(チャボ)、クイナ、イイズナ。
文化財科学	植物等標本同定 X線構造解析	蘚苔類標本16点を関太郎氏(広島大学名誉教授)に同定していただいた。 遺跡出土赤色物質を構成する鉱物の同定を委託した。
	マイクロスコープ 借り上げ	文化財表面観察用デジタルマイクロスコープをリースし、文化財の表面観察およびデジタル画像撮影を行った。

イ. 館内調査研究報告会

日時：平成 28 年 3 月 6 日（月）9：30～15：30

会場：講堂

I 個別調査研究

岩手県における洞穴性クモの分布と生態について	渡辺 修二
津波でよみがえった湿地性植物について	鈴木まほろ
新たな展開を迎えつつある本州産クマゲラ	藤井 忠志
陸前高田市矢作町飯森から産出する中部ペルム系動物化石群の調査	望月 貴史
夏山川流域の鉾山跡について	吉田 充
To-a テフラからみた国見山廃寺跡の遺構年代	丸山 浩治
遮光器土偶の数の偏り	金子 昭彦
閉伊の古代～中世製鉄遺構の構造変遷の傾向について	小山内 透
郷土史と学校 ー近現代史を中心にー	笠原 雅史
荒川文助作品の制作年代と変遷について	原田 祐参
南北朝時代における改元前後の元号表記について	佐々木康裕
川口月村が描いた鉄道沿線風景	齋藤 里香
被災紙製資料に残存する有害物質の成因とその除去方法について	赤沼 英男
岩手県立平舘高等学校との連携プロジェクト報告	川向富貴子
養蚕信仰にみる猫絵馬奉納の習俗～県南地方寄贈絵馬調査を事例として～	近藤 良子
田山曆について ～これからのアプローチ～	小野寺俊彦

ウ. 調査研究成果の公表

(ア) 「岩手県立博物館研究報告」第 34 号

(A4 判・34 頁・PDF 版のみ・平成 29 年 3 月 24 日発行)

藤井忠志・渡邊治・佐々木務・佐々木朋子・佐藤和義「ニューナイスズメ *Passer rutilans* の岩手県初繁殖」1～4 ページ

藤井忠志・斉藤友彦・小林光憲・澤田啓・塩満節子・伊藤信矢・杉村克・米倉達夫・米田正栄・村井全司「ノハラツグミ *Turdus pilaris* の岩手県初記録」5～7 ページ

渡辺修二・藤井忠志・鈴木まほろ「マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802) 岩手県初記録」9～11 ページ

小野哲也・赤沼英男・目時和哉「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明（3）」13～27 ページ

(イ) 「岩手県立博物館調査研究報告書」

H28 年度は発行しなかった。

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作

(*共同発表の際の当館職員)

a. 口頭発表等

- ・武田昭子・赤沼英男*・土谷信高・明珍素也・佐々木喜之：中世の大陸伝来漆器と列島内製作漆器に用いられた下地調整技法に関する比較分析。日本文化財科学会第 38 回大会，2016 年 6 月 4 日，奈良大学
- ・武田昭子・赤沼英男*・熊谷賢・本多文人：被災写真を対象にした安定化処理方法の開発。第 38 回文化財保存修復学会，2016 年 6 月 25 日，東海大学
- ・笠原雅史：大島高任と釜石鉾山について。盛岡の歴史を語る会，2016 年 7 月 15 日，盛岡市総合福祉センター

- ・笠原雅史：資料に見る大島高任 - 大島高任の生涯と世界遺産 橋野鉄鉱山 - . 資源・素材 2016 (盛岡), 2016年9月14日, 岩手大学理工学部テクノホール
- ・黒尾正樹(弘前大・農生), 藤井忠志*(岩手県博), 十河尚旗, 八木橋隼土, 長井和哉(弘前大・農生): ミトコンドリアDNAによるクマガラの遺伝的多様性の解析. 日本鳥学会 2016年度札幌大会, 2016年9月, 札幌市
- ・丸山浩治: Reading society from volcanic ash: 10th century volcanic eruptions and the northern Tohoku region. 世界考古学会議第8回京都大会, 2016年9月, 京都市
- ・笠原雅史: 郷土史学習と高校日本史. 岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会秋季総会, 2016年10月25日, 二戸パークホテル
- ・金子昭彦: 津軽海峡圏の装身具の変遷. 一般社団法人日本考古学協会 2016年度大会, 2016年10月, 弘前市
- ・丸山浩治: 十和田火山の噴火と北上の遺跡—平安時代を中心に—. 北上市発掘調査報告会・講演会, 2017年1月, 北上市
- ・望月貴史*・田鎖康之・白土豊・工藤彩・関博充・濱村伸治: 県内巡回展示を通して行う地域連携. 第24回全国科学博物館協議会研究発表大会, 2017年2月, 京都市
- ・赤沼英男*: 出土資料の形態と組成からみたカマン・カレホユック遺跡前期青銅器時代の鉄生産活動. 第27回トルコ調査研究会, 2017年3月5日, 学習院大学
- ・金子昭彦: 岩手県の遮光器土偶. 土偶研究会青森大会, 2017年3月, 青森市
- ・金子昭彦: 狩猟文土器と人体文土器. 平成28年度パネル展・講座・縄文人体文土器とその世界, 2017年3月, 滝沢市

b. 論文・報文

- ・内田優花・佐野千絵・赤沼英男* (2017) 津波被災紙資料における ATP+AMP 抜き取り検査の活用. 保存科学, 56:113-120. (査読あり)
- ・笠原雅史 (2017) 郷土史学習と高校日本史. 岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会事務局年報『社会科学研究』, 58: (2017.6 発行予定) (査読なし)
- ・笠原雅史 (2017) 資料に見る大島高任 - 大島高任の生涯と世界遺産 橋野鉄鉱山 - . 資源・素材学会 (雑誌名?), (2017 発行予定) (査読なし)
- ・金子昭彦 (2016) 縄文土坑の記載方法と属性相関図. 東京考古, (34): 19-34. (査読なし)
- ・金子昭彦 (2017) 東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(2). (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 紀要, 36: 15-34. (査読なし)
- ・金子昭彦 (2017) 弥生時代の縄文土偶. 青森県考古学, 25: 29-46. (査読なし)
- ・金子昭彦 (2016) 東北地方北部・縄文時代晩期における玉を持つ意味. 玉文化研究, (2): 145-170. (査読なし)
- ・金子昭彦 (2016) 津軽海峡圏の装身具の変遷. 一般社団法人日本考古学協会 2016年度弘前大会第 I 分科会「津軽海峡圏の縄文文化」研究報告資料集: 223-244. (査読なし)
- ・佐野千絵・内田優花・赤沼英男* (2017) 津波被災紙資料から発生する臭気の実態の分析と発生メカニズムの推定. 保存科学, 56:121-133. (査読あり)
- ・鈴木まほろ*・大上幹彦・金田宜昭・武田眞一・浜津ミサノ (2016) 東北地方におけるイネ科フォーリーガヤの初記録. 植物研究雑誌, 91: 105-106. (査読あり・短報)
- ・Suzuki Mahoro* (2016) "Flora of freshwater wetlands in the tsunami-affected zone of the Tohoku Region." In: J. Urabe and T. Nakashizuka (eds), Ecological impacts of tsunamis on coastal ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake. p.361-382. Springer. (査読あり)
- ・水村伸行・赤沼英男* (2017) 自然科学的調査結果からみた出土渡来銭の分類とその意味: 一乗谷朝倉氏遺跡 SE3419 出土品を中心に. 福井県立歴史博物館研究紀要, 12: 1-109. (査読なし)
- ・望月貴史*・吉田充* (2016) 平成27年度岩手県立博物館第69回地質観察会報告会『綱取の地層観察とイワシ化石採集』. 岩手の地学, 46: 97. (査読なし)

- ・望月貴史*・田鎖康之・白土豊・工藤彩・関博充・濱村伸治(2017)：県内巡回展示を通して行う地域連携. 第24回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, 41-47. (査読なし)
- ・吉田充*・望月貴史* (2016) 平成27年度岩手県立博物館第70回地質観察会報告会『大船渡周辺のカンブリア紀～白亜紀にわたる火成岩類』. 岩手の地学, 46:98. (査読なし)

c. 新聞その他の著作

- ・赤沼英男*・熊谷賢「ずっとずっとふるさと陸前高田」大津波被災文化財保存修復プロジェクト 2016年11月26日
- ・藤井忠志「たった1羽のクマゲラ」北鹿新聞文化欄 2016年12月17日

読売新聞岩手版 土曜博物館前期 各月毎週土曜日掲載

- ・笠原雅史 (歴史学部門) 「製鉄の父-砲術の道突き進む-」2016年4月2日
- ・藤井忠志 (生物学部門) 「クマゲラ-津軽海峡を渡るのか-」2016年4月23日
- ・笠原雅史 (歴史学部門) 「大島高任-公平-緻密な意見書-」2016年5月7日
- ・原田祐参 (歴史学部門) 「鳥瞰図-色鮮やかな観光案内-」2016年5月14日
- ・佐々木康裕 (歴史学部門) 「秀衡の遺言-奥羽の平和への思い-」2016年5月21日
- ・渡辺修二 (生物学部門) 「洞穴生物-地史や分布変遷読み取る-」2016年5月28日
- ・丸山浩治 (考古学部門) 「石器-高度な技術破片から採る-」2016年6月4日
- ・金子昭彦 (考古学部門) 「腰かける土偶-ポーズが伝える社会情勢-」2016年6月18日
- ・吉田 充 (地質学部門) 「鉱床-川砂が伝える鉱山の歴史-」2016年7月2日
- ・望月貴史 (地質学部門) 「大量絶滅-地層で見る古生代生命史-」2016年7月16日
- ・小野寺俊彦 (民俗学部門) 「田山暦-古い告げる絵がたっぷり-」2016年7月30日
- ・鈴木まほろ (生物学部門) 「ハマゴウ-岩手から消えた海辺の花-」2016年8月6日
- ・齋藤里香 (歴史学部門) 「弓矢-源平合戦に数々の逸話-」2016年8月13日
- ・川向富貴子 (民俗学部門) 「寄贈-花模様-フォルム美しい便器-」2016年8月20日
- ・赤沼英男 (文化財部門) 「蕨手刀-日本刀の成立に影響-」2016年8月27日
- ・小山内透 (考古学部門) 「製鉄-手間かかる工程解明期待-」2016年9月3日
- ・近藤良子 (民俗学部門) 「猫の絵馬-飼い主の愛情もにじむ-」2016年9月17日
- ・原田祐参 (歴史学部門) 「スポーツ-サッカー史に県人の足跡-」2016年9月24日

読売新聞岩手版 土曜博物館後期 各月毎週土曜日掲載

- ・藤井忠志 (生物学部門) 「クマゲラのひみつ-たくさんのアリを捕食-」2016年11月5日
- ・笠原雅史 (歴史学部門) 「那珂梧楼-松陰と交友「至誠」を説く-」2016年11月12日
- ・佐々木康裕 (歴史学部門) 「加賀美遠光-頼朝一家と親密な関係-」2016年11月19日
- ・渡辺修二 (生物学部門) 「イソコモリグモ-大津波で県内から絶滅-」2016年11月26日
- ・丸山浩治 (考古学部門) 「黒曜石-古墳時代なめしの道具に-」2016年12月3日
- ・金子昭彦 (考古学部門) 「狩猟文土器-粘土で貼り付けた神話-」2016年12月10日
- ・吉田 充 (地質学部門) 「砂金-水中流れるほど成長-」2016年12月17日
- ・望月貴史 (地質学部門) 「カンブリア紀-動物爆発的に多様化-」2017年1月7日
- ・小野寺俊彦 (民俗学部門) 「小正月-豊作願いや様々な行事-」2017年1月14日
- ・鈴木まほろ (生物学部門) 「マルミノシバナ-湿地埋め立てで避難中-」2017年1月21日
- ・原田祐参 (歴史学部門) 「参勤交代-大名行列華やかに演出-」2017年1月28日
- ・川向富貴子 (民俗学部門) 「早池峰神楽-国立劇場別世界の舞台-」2017年2月18日
- ・赤沼英男 (文化財部門) 「鉄鍋-火所かまどから囲炉裏へ-」2017年2月25日
- ・小山内透 (考古学部門) 「たたら製鉄-量産化への設備が進歩-」2017年3月4日
- ・近藤良子 (民俗学部門) 「茅葺き-補修工事職人の技に注目-」2017年3月18日
- ・齋藤里香 (歴史学部門) 「鉄道画-変化した日常の風景伝える-」2017年3月25日

朝日新聞岩手版 県立博物館へようこそ 各月第二金曜日掲載

- ・藤井忠志（生物学部門）「クマゲラ-定着にブナ林保護、急務-」2016年4月8日
- ・望月貴史（地質学部門）「大量絶滅-第6の危機人間は意識を-」2016年5月13日
- ・金子昭彦（考古学部門）「弥生土器-教科書と異なる岩手の歴史-」2016年6月10日
- ・渡辺修二（生物学部門）「地域性の危機-生き物外に逃がさないで-」2016年7月8日
- ・赤沼英男（文化財部門）「被災文化財の修復-複数期間が連携古文書再生-」2016年8月12日
- ・佐々木康裕（歴史学部門）「南部氏-糠部への入封時期のなぞ-」2016年9月9日
- ・川向富貴子（民俗学部門）「郷土芸能公演 数十年ぶり復活「鹿酒盛」2016年10月14日
- ・小野寺俊彦（民俗学部門）「氷冷蔵庫-「三種の神器」の登場までは-」2016年11月11日
- ・鈴木まほろ（生物学部門）「砂浜の植物-津波被害受けても回復-」2016年12月9日
- ・吉田 充（地質学部門）「蛇紋岩-砂金が採集できる「県の石」-」2017年1月13日
- ・丸山浩治（考古学部門）「二戸・舌崎-鉄道開通と縄文遺跡保存-」2017年2月10日
- ・齋藤里香（歴史学部門）「蕨虫山人-明治の岩手描いた放浪画家-」2017年3月10日

エ. 研究受託実施状況

文化財の自然科学的調査によって、内部構造、材質、製作技法、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を基に、後世に長く伝えるための保存修復方法が施され、同時に過去の物質文化交流を解明するための研究が進められる。自然科学的方法を用い、過去を解明する手がかりとなる学術情報を提供している機関は全国的にみてもきわめて少ない。

岩手県立博物館では調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する研究受託を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財の安定化処理及び修理を開始した。平成28年度の研究受託実績は表（3）—3に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存を図るとともに、過去を解明するうえでの学術情報の発信に努めている。

表（3）—3 平成28年度研究受託実施実績状況

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）	3	教育委員会、博物館等
被災民俗資料修理業務	1	教育委員会
被災コレクション安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
土器・土製品安定化処理業務	1	教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	教育委員会
被災自然史標本修復及びデータベース化（昆虫標本）	1	教育委員会

オ. 前平泉文化研究受託事業（前平泉文化の研究）

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により平成12年度から奥州藤原氏に関連した遺跡の考古学調査を実施してきた。その内容は、衣川流域及び人首川流域における遺跡の分布調査、紫波町域における積石状塚の調査及び比爪館跡の微細地形測量調査である。

平成28年度は、安倍氏と密接な関係のある金ヶ崎町を調査地域とし、同氏居館鳥海柵跡との関連が推察される観音寺廃寺遺跡（金ヶ崎町永沢字不同沢）の微細地形測量調査を行った。本遺跡では、1980・1981年度に遺構確認調査が遺跡北西部などで実施され、平板による実測が行われている。しかし同方法は傾斜地での精度に問題が生じやすく、実際、実測図と現況に少なからぬ誤差があることが見て取れた。よって今回は、トータルステーションと遺構実測支援システムを使用し、より高精度の地形測量調査を広範囲に対して行うことで、標高10～20cm毎の等高線図作成と未知の遺構検出を目指した。今年度の調査対象区域は、過去の調査が手薄であった遺跡北東部の約20,000㎡とし、平成28年11月7日から11月21日までの期間で測量作業を実施した（実働9日間）。

測定のデータは縮尺 1 : 750 に調整し、岩手県教育委員会への成果報告を行っている。本調査による新知見及び成果品は、今後の観音寺廃寺研究の基本資料となるものである。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 7,000 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

平成 28 年度は 5 名の更新が承認された。平成 29 年 3 月末現在で xx 名（下記一覧、順不同）となっている。

○研究協力員（更新）

- 1 吉田裕生（元当館学第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究等〔地質部門〕
- 2 沼宮内明（元当館学芸調査員）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 3 千葉武勝（元岩手県病害虫防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作製、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 4 佐竹邦彦（元県立学校校長）：昆虫標本の整理、とくに双翅目昆虫の同定、標本作製、調査の研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 5 沼宮内信之（日本森林技術協会）：岩手県の植物相〔生物部門〕

○研究協力員（継続）

- 6 沼宮内耕作（元当館学芸部長）：岩手県の蘚苔類相〔生物部門〕
- 7 土谷信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究〔文化財科学部門〕
- 8 女鹿潤哉（元当館主任専門学芸員）：古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究〔文化財科学部門〕
- 9 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究〔民俗部門〕
- 10 玉山光典（岩手高校教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相〔生物部門〕
- 11 後藤友明（岩手大学三陸水産研究センター）：魚類分類学〔生物部門〕
- 12 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究〔生物部門〕
- 13 目時和哉（元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕
- 14 藤井千春（元当館主任専門学芸員）：北日本における発光生物の生態学的研究〔生物部門〕
- 15 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究〔地質部門〕

（４）資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

平成 28 年度 3 月末現在の登録資料数は 10,660 点で、開館以降の累計は 288,103 点にのぼる（表(4)-1）。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は 25 件、約 38,895 点である（表(4)-2）。

表(4)-1 平成 28 年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	27 年度末累計	2,847	21,929	922	3	77	25,778
	28 年度計	31	3,600	-	-	-	3,631
	累計	2,878	25,529	922	3	77	29,409

発掘	27年度末累計	209	-	3,468	-	-	3,677
	28年度計	-	-	2	-	-	2
	累計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄贈	27年度末累計	4,372	115,510	53,408	32,415	16,288	221,993
	28年度計	4	6,604	-	156	209	6,973
	累計	4,376	122,114	53,408	32,571	16,497	228,966
購入	27年度末累計	1,391	12,166	267	6,973	2,515	23,312
	28年度計	6	-	-	2	-	8
	累計	1,397	12,166	267	6,975	2,515	23,320
製作	27年度末累計	115	503	95	112	391	1,216
	28年度計	-	7	-	2	37	46
	累計	115	510	95	114	428	1,262
所管換	27年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	28年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	1	84	-	1,104	278	1,467
合計	27年度末累計	8,935	150,192	58,160	40,607	19,549	277,443
	28年度計	41	10,211	2	160	246	10,660
	累計	8,976	160,403	58,162	40,767	19,795	288,103

表(4)-2 主な受贈資料

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資 料 名	数量
地質	-	-	カタツムリ類化石	1
生物	土井 信夫	雫石町	昆虫標本	約 33,000 頭
	高橋 聖	盛岡市	テナガザル剥製	1
	奥 昭夫	二戸市	昆虫標本	5,585 頭
	檜山 季樹	東京都	オオフウチョウ剥製	1
歴史	小山 眞	一関市	学校日誌及び明治三陸地震におけるスケッチ	1
	中山 敏	奥州市	中山家資料(総称)	3
	三浦家	盛岡市	山崎鯢山書(ほか)	8
	小山 祐吾	盛岡市	小笠原家資料	12
	杉村 恵美子	盛岡市	第三次杉村コレクション	23
	鎌田 隆	盛岡市	鎌田コレクション	115
	遠藤 保仁	葛巻町	月江画、月昇画	2
	-	-	南部領閉伊郡之図	6
民俗	鈴木 幸	滝沢市	伝統こけし	30
	大宮 訓召	滝沢市	背負いもっこ	1
	岩瀬稔・キミ子	奥州市	及川全三作品(オーバーほか)	3
	伊藤トシ子	盛岡市	竿秤	1
	梅木 力	陸前高田市	猫図絵馬	12
	-	-	陶器人形、土人形、郷土人形、銭箱	34
	北口 勝三郎	八幡平市	漆掻き道具	6
	盾石 拓	北上市	電気コンロ等	4
	岩手県助産師会	盛岡市	助産師関係道具一式	2 件
	佐藤 ムツ	盛岡市	書籍	2
	立石 す枝	久慈市	大峯修験宗勤行儀ほか	2
	浅沼 久仁弘	盛岡市	享保雛、花巻人形ほか	39

-は、寄贈者の希望により掲載しない。

新規登録資料点数は生物部門が最も多い。昆虫標本を主体に 10,211 点で全体の約 96%を占める。地質部門では陸前高田市矢作町産の三葉虫化石や、小袖海岸や田老海岸をはじめとする県内各地の砂など 43 点を、生物部門で

は寄贈された兼平兼治コレクション、平野俊秀コレクション、奥昭夫コレクションなどの昆虫標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など 10,211 点を、歴史部門では寄贈された山県有朋書 二行詩、菊池黙堂画「春秋山水」、鎌田コレクションなど 164 点を、民俗部門では寄贈された淡路人形などの鈴江家関係資料、ホームスパンのオーバーなど及川全三関連資料、伝統こけし、陶器人形、助産道具など 246 点を、考古部門では、柱状土層 To-a テフラ、堅穴住居堆積土剥ぎ取り資料の 2 点を登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成 23 年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成 24 年 4 月から早稲田システム開発㈱が提供する I.B.Museum SaaS により行うこととした。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。平成 25 年 4 月からこのシステムを使用し、岩手県立博物館が所蔵する資料の一部について情報公開を行っている。現在 329 点の資料情報を公開中である。

表（４）－３ 資料の製作

部 門	名 称	内 容 の 概 略
考古	遮光器土偶模型製作	来年度企画展「遮光器土偶の世界」で展示する模型。高さ、本体 100 cm、台 30 cm。
地質	コバドント生態復元模型	三畳紀前期に生きていた古生物の生態復元模型。実際の大きさよりも拡大している。第 67 回企画展で展示するために作成(製作元:テクノ株式会社)。
生物	鳥獣本剥製製作	カンムリカイツブリ、アオゲラ(♂)、インヒヨドリ(♀)、クロジ(♂・普通)、クロジ(♂・チャボ)、クイナ、イヅナ
歴史	橋野三番高炉	現在の橋野三番高炉の複製
歴史	橋野二番高炉	「両鉄鉦山御山内並高炉之図」を参考に、橋野二番高炉を復元したもの。
民俗	映像資料のデジタル化 【事業団予算】	岩手県立博物館及び岩手県文化振興事業団が制作した映像、館蔵小形信夫コレクション映像計 75 本のデジタル化を行った。後者の実施に際しては㈱日本ハウスホールディングス(東日本ハウス㈱)より特段の配慮をいただいた。
民俗	映像資料制作	岩手県文化振興事業団自主事業「平成 28 年度伝統芸能鑑賞会～遠野郷のしし踊り 駒木鹿子踊公演～」の記録映像を制作した。
学芸第三課	体験学習室ハンズオン の製作	①県立平舘高等学校との連携プロジェクトにより、近代女学生装束 2 点を新規製作した。製作にあたっては㈱東亜・育山あゆみ先生(東亜和裁盛岡支部)よりご指導いただいた。 ②上記にあわせて南部桐下駄 3 点を新規製作した。

表（４）－４ 資料の補修、用品類の購入

部 門	事 業 名	内 容
地質	岩石収納用木箱の購入	岩石・鉱物・化石標本の収蔵点数の増加により、これらを収納する収蔵庫専用の標本木箱 9 個を購入した。
歴史	湾台遺跡製鉄炉剥ぎ取り	山田町湾台遺跡の製鉄炉剥ぎ取りを補修した。また、フイゴや鉄滓の場所を明示し、説明文を付した。
民俗	民俗資料の演示具製作	常設展示「むかしのくらし大図鑑」出品中の民俗資料(氷冷蔵庫、氷削台等)を補完する演示具を製作した。
民俗	民俗資料の演示具製作	館蔵金田一コレクションの内裏雛及び五人囃子専用の親玉台(暈台)と一人台(黒塗)計 7 点を製作した。

歴史・民俗	アーカイバル容器の製作購入	資料輸送・保管用のテンパコ 2 種計 20 箱を購入した。また、平成 27 年度にご寄贈いただいた淡路人形のうち、操り人形「三番叟」1 点専用のアーカイバル容器を製作した。
学芸第三課	体験学習室ハンズオンの補修	①近代女学生装束の対となる外套「トンビ」、明治時代ドレスの対となる外套「フロックコート」の修繕を行った。 ②上記にあわせて結髪かつらの結い直し(マガレイト)を行った。 ③盛岡市・アトリエ経のご厚意により明治時代ドレスのチュール交換を行った。修繕に際してはチュールの取り替えが容易にできるよう仕様変更を行った。 ④劣化した駕籠の吊り手、座椅子の交換を行った。 ⑤劣化した鎧と兜の紐を更新した。欠損した大名火消装束のボタン等を修理した。 ⑥岩手県水産技術センターのご厚意により魚釣りコーナーの吊り竿と魚を更新した。
学芸第三課	学校貸出教材の補修	狩衣装束附属品である浅沓の甲あて等の取り替えを行った。
学芸第三課	展示ケースの修繕	絵巻ケースの修繕を行った。
学芸第三課	移動用組み立て展示ケース製作	使用不能ケースが多くなってきたことから、移動用組み立て式展示ケース(大、通称移動展ケース)3台を製作した。

表(4) - 5 機器類の保守点検と修繕

項目	部門	機器名または内容
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム)、表面分析装置(蛍光X線分析装置・走査型電子顕微鏡・X線回折装置)、微量化学分析装置(ICP発光分光分析装置)、汎用科学分析装置(赤外分光光度計・微小表面拡大装置・示差熱重量同時分析装置)、保存処理機器(大型真空凍結乾燥機・小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム(文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器)
修繕	文化財科学	大型真空凍結乾燥機、小型真空凍結乾燥機、滅菌器、塩素イオンメーター、分析天秤校正
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出しの要請があり、実物資料については11件・131点、画像(写真)資料については71件・170点の貸出しを行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた。

表(4) - 6 実物資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資料名	点数
地質	久慈琥珀博物館	オオバタグルミの堅果など	57
	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石など	14

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
地質	佐野市葛生化石館	モシリユウ上腕骨、宮沢賢治作成の地質図のカラーコピーなど	8
	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	コスタクリメニア、ミヤコセラスなど	10
生物	奥州市牛の博物館	名古屋種剥製等	7
民俗	岩手県立図書館	相撲極伝之書(複製)、田頭相撲倶楽部はがきなど	3
歴史	原敬記念館	南部秀麻呂画「水仙図」、盛岡新誌(復刊)など	4
	もりおか歴史文化館	「桜に鳥図鉄瓶」、「南部駒図鉄瓶」など	11
	小坂町立総合博物館郷土間	大畑陣屋絵図、松前表并道中心得之儀申渡候事など	5
	遠野市市立博物館	金沢御山大盛之図	1
	盛岡市先人記念館	幡街芸子名、鶉籠、楽焼茶器など	11
合計			131

表(4)-7 画像資料の貸出

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
地質	川口印刷工業株式会社	ペルム期に絶滅した両生類 セイムリア(複製)	1
	朝日新聞山形総局	蛇紋岩、鉄鉱石	2
	日本放送協会	岩手県鉱山分布図	1
	大石雅之	磁鉄鉱礫(餅鉄)	1
	釜石市	古地理図1 石炭紀B、古地理図2 白亜紀B、古地理図3 中新世B、古地理図4 鮮新世B、古地理図5 更新世B	5
	大石雅之	モシリユウ復元図、白亜紀古地理図	2
	(株)テレビ岩手	シルル紀のサンゴ化石②、シルル紀のサンゴ化石③	2
	岩手日日新聞社盛岡支社	磁鉄鉱礫(餅鉄)、シルル紀のサンゴ化石、蛇紋岩	3
	遠野市立博物館	岩手県内地質図	1
	株式会社総合広告社	ペルム期に絶滅した両生類 セイムリア(複製)	1
	S. K. プロ	早池峰構造体の蛇紋岩、ハヤチネウスユキソウ、ナンブトラノオ	5
	(株)北鹿新聞	セイムリア複製	1
	佐野市葛生化石館	モシリユウ復元図、屋上から紫波三山	2
	一般社団法人共同通信社	ペルム期に絶滅した両生類 セイムリア(複製)	1
	株式会社ジッピープロダクション	マメンキサウルスの骨格標本、モシリユウ復元図	2
	NHK盛岡支局	モシリユウ上腕骨部、モシリユウ復元図、三葉虫イメージ図、ミズアオイ、ウミミドリ、カワラハンミョウ、ホソハンミョウ	7
	株式会社ニュートンプレス	モシリユウ上腕骨	1
	大石雅之	二枚貝スタックヒルギンジミ比較種、二枚貝類シレナジミ	2
	日本放送協会 国際放送局	モシリユウの上腕骨	1
	ドゥアンドゥブランニング有限会社	モシリユウの上腕骨	1
生物	小田康裕	ヤマトスジグロシロチョウ、カシワアカシジミ、ヒョウモンチョウ	3
考古	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土の遮光器土偶	1
	九戸歴史民俗の会	根井貝塚 1号住居址遺物出土状況	1

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	点数
考 古	株式会社テムジン	森内遺跡 大型土偶・頭部	1
	株式会社山と溪谷	豊岡遺跡出土の遮光器土偶、貝島貝塚出土の指揮棒、貝島貝塚出土の頸飾 (蛙)	4
	滝沢市埋蔵文化財センター	馬立Ⅱ遺跡 狩猟文土器	1
	株式会社 テレビ朝日	森内遺跡 大型土偶・頭部	1
	株式会社 テレビ朝日	赤穴式土器	2
	有限会社 鋳脈社	大型遮光器土偶、泥の中から取り出した昆虫標本の取り出し	2
	株式会社三笠書房	手代森遺跡の遮光器土偶	1
	有限会社リタピクチャル	縄文遺物展示風景、博物館外観、博物館エントランス	10
	青森県	図版「縄文前期後葉及び中期中葉の型式分布」	1
	ミキモト真珠島 真珠博物館	岩谷洞穴出土の真珠	1
民 俗	株式会社インフォマージュ	浄法寺産のアバ	1
	株式会社ネクサス	森口多里写真コレクション (エジコの赤子)	1
	株式会社岩崎書店	旧藤野家住宅外観	1
	株式会社 TBS テレビ	田頭相撲倶楽部絵はがき	1
	株式会社大空出版	田頭相撲倶楽部絵はがき	1
	法政大学出版局	花巻市東和町 三熊野神社・泣き相撲 十二番角力	1
	岩手県立図書館	相撲錦絵 4 点	4
	ふるさと岩手の芸能とくらし研究会	森口多里写真コレクション (南都田田植踊)	1
	千葉惣次	小軽米えんぶり御幣 3 種	5
	伊藤潤	東芝電気洗濯機、かもめ印マジック洗濯機、ナショナル電気洗濯機、コロムビア真空管テレビ、三和かまど	5
	戸来元	森口多里写真コレクション (八戸えんぶり野場組)、陸奥之土風 えんぶり場面	4
	前田千香子	森口多里写真コレクション (三陸町吉浜 ナマコ引き、ナマコドノ、小正月のナマコヒキ、セックマチ)	4
歴 史	奥州市	桐竹文綾九条袈裟 (六祖伝衣)	3
	(株)坂井編集企画事務所	紙本著色鍛冶神図	1
	株式会社ファミリーマガジン	鯰尾兜	1
	岩手県立図書館	陸中国閉伊郡釜石鋳山寮之図 (複製)、官営製鉄所の図面	2
	遠野市立博物館	金沢御山大盛之図	24
	(株)東北朝日プロダクション	盛岡藩参勤交代図巻	1
	株式会社 PHP 研究所	盛岡藩参勤交代図巻	1
	夕刊三重新聞社	鯰尾兜	1
	株式会社ループス プロダクション	鯰尾兜	1
	昭和のくらし博物館	コッペパン焼器	1
	公益財団法人常陽藝文センター	笛「田鶴子」	1
	株式会社 DTP 出版	鯰尾兜	1
	株式会社テレビ岩手	毛越寺 観自在王院 模型	1
	合同会社 浩然社	鯰尾兜	1
	株式会社 K&B パブリッシャーズ	盛岡城下鳥瞰図	1
	株式会社筑摩書房	鶴住居観音堂 十一面観音立像	1

担当部門	貸出先（所在地）	資料名	点数
歴史	会津若松商工会議所	鯨尾兜	1
	岩手県立図書館	山水真写譜、向鶴紋蒔絵陣笠、槍 銘 濃州之住長俊、三閉伊日記	4
	TBS テレビ	蓑虫山人 気仙郡今泉村 愛宕山眺望之図、蓑虫山人 気仙郡高田町 旭日之浦之景	2
	株式会社 淡交社	鯨尾兜	1
	岩手県赤十字血液センター	毛越寺建物の復元画像	1
	株式会社杜陵印刷	槍（銘濃州之住長俊）、鯨尾兜、松竹鶴亀蒔絵鏡台、源氏絵蒔絵香箱、鶴蒔絵鼻紙台、和歌三神図、金小札茶糸威二枚胴具足、亀甲花菱文鶴高蒔絵鞍・鐙、林和靖図、柿に鳥蒔絵硯箱、藤棚蒔絵文箱、銀装衛府太刀拵、卯花威紅羅紗唐獅子牡丹文二枚胴具足	13
	テレコムスタッフ株式会社	鯨尾兜	1
	株式会社 土木技研	盛岡城下鳥瞰図	1
	川口印刷工業株式会社	刀銘 以餅鉄盛岡住宮川源秀一、北上山地のたたら遺跡分布図	2
共通	国立国会図書館	2011. 3. 11 平成の大津波被害と博物館：被災資料の再生を目指して、いわての昭和モノがたり：戦後復興の軌跡、震災復興への希望：岩手県立博物館テーマ展	2
合計			170

（イ）文化財科学部門

岩手県立博物館には先人から伝えられた貴重な文化財、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている様々な情報を、自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

a. 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を設定する必要がある。岩手県立博物館では収蔵庫及び展示場に温湿度記録計を設置し、温湿度変化を継続的に観察している。その結果を踏まえ空調機を制御し、更に必要に応じて除湿機や加湿器を使用して、展示場、収蔵庫内の温度を18～23℃、湿度を55～65%に維持することに努めている。今年度は老朽化したデータログを順次更新置して、収蔵庫、展示場、展示ケース内の温湿度変動をきめ細かく計測できるようにした。

特に精度の高い湿度管理を行う必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを使い公開している。出土金属器・木器については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

b. 生物学的劣化からの防除

文書、書籍類、繊維製品、自然史標本等有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性がある。固着する有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示場に運び込まれた場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫や黴から資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌機でくん蒸を行っている。平成28年度の滅菌機によるくん蒸実施状況は表(4)―8に示すとおりである。

表(4)―8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
生物	昆虫標本（ドイツ箱入）	198	箱	剥製等
	押し葉標本	26	箱	
	その他	2	件	
歴史	文書類	1	箱	テーマ展用資料
	岩石	1	件	
民俗	民具等	27	件	
	文書類	1	件	
文財	文書類（陸高、紙資料）	6	箱	

平成28年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第一・第二・第三収蔵庫、歴史整理室、デジタルサイネージ室、資料登録室及び第二書庫をくん蒸した。平成28年6月および平成28年10月には、館内の害虫生息状況について実態調査を実施した。さらに収蔵庫、展示室のくん蒸実施後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。平成29年3月には第4収蔵庫内床面のクリーニングを行った。

平成28年度についても、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

c. 資料の科学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存し活用するためには、資料の内部構造、製作に使用された素材を把握する必要がある。岩手県立博物館では、EPMA(電子線・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計などの微量分析機器を駆使し、文化財を自然科学的方法で調査し、資料の素材に関する基礎情報の収集を図っている。

調査の結果、劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存修復を施している。平成28年度の岩手県立博物館関係資料の分析・保存処理実施状況は表(4)―9のとおりである。

表(4)―9 館関係資料の自然科学的状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	22
紙製資料の自然科学的調査	192
土製資料の自然化学的調査	13
非鉄金属資料の自然科学的調査	24
鉄製試料の自然科学的調査	13
ガラス資料の自然科学的調査	2
顔料関係資料の自然科学的調査	6

既述のとおり、文化財の科学分析、保存修復には様々な理化学機器が使用される。それらの安全で円滑な使用を図るため、労働安全衛生法及び関連諸規則等の法令に定められている機器保守点検、作業環境測定及び使用済薬品の無害化処理の委託(表(4)―10)を実施した。様々な機器を使って得られた情報は、資料の保存方法、良好な保存環境の維持にも生かされている。

表(4)―10 委託事業

委託事業名	数量	単位	備考
全館くん蒸消毒(6,843m ³)	7	個所	第一・第二・第三収蔵庫、資料登録室、サイネージ室、歴史整理室、第二書庫
文化財科学機器保守点検	6	件	表面分析装置、微量化学分析装置、汎用科学分析装置、保存処理機器、博物館資料滅菌システム、文化財科学実験システム
文化財科学作業環境測定	1	件	
使用済薬品等廃棄処分	1	件	

(5) 総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だより No. 149～152

(A4判、8頁、各3,000部)

149号：目次／企画展「古生代の大量絶滅と回復 - 進化の影と光 - 」表紙「ペルム紀に絶滅した両生類セイムリア【複製】」／館長挨拶「着任にあたって」活動レポート「普及事業を支えるボランティアの活動」p. 2-／事業報告「バーミングハム公立図書館からの贈り物 日米親善人形『ミス岩手』の里帰り」活動レポート「岩手県平舘高等学校との連携プロジェクト」p. 3／展覧会案内「第67回企画展『古生代の大量絶滅と回復 - 進化の影と光 - 』」p. 4-5／いわて文化ノート「土偶日本一岩手県、岩手のブランド『大型遮光器土偶』」p. 6-7／インフォメーション p. 8

150号：目次／特別展「スポーツ博覧会いわて」表紙「第25回国民体育大会開会式」／いわて文化ノート「南部氏発祥の地・山梨県南部町の南部氏関連史跡」p. 2-3／展覧会案内「特別展 スポーツ博覧会いわて」p. 4-5／展覧会案内「第2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる - 秩父宮記念スポーツ博物館岩手巡回展-」p. 6／事業報告「第71回地質観察会『釜石鉱山跡をさぐる』」p. 7／インフォメーション p. 8

151号：目次／「テーマ展 大津波と三陸の生き物」表紙「三陸のリアス海岸 広田半島黒崎から南西方向をのぞむ」／いわて文化ノート「『田山暦』の周辺、つれづれ」p. 2-3／展覧会案内「大津波と三陸の生き物」p. 4-5／事業報告「第72回自然観察会『夏山で生きもの探し』」p. 6／活動レポート「インターネットを利用した博物館の情報発信」「平成28年度考古学セミナー」p. 7／インフォメーション p. 8

152号：目次／テーマ展「絵画でたどる19世紀岩手の風景」表紙 川口月村「盛岡停車場」／いわて文化ノート「砂金の素顔～北上山地内で採集した砂金」p. 2-3／展覧会案内「テーマ展 絵画でたどる19世紀岩手の風景」p. 4-5／事業報告「H28トピック展『岩手の生き物たち』回顧録」解説員室より「“変身してみませんか”」p. 6／事業報告「岩手県立博物館まつり」p. 7／インフォメーション p. 8

b. 平成27年度岩手県立博物館年報

A4判相当PDF版、74頁、平成28年6月1日発行（ホームページ掲載）

c. 行事案内リーフレット

平成28年度下半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成28年8月発行）

平成29年度上半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成29年3月発行）

d. 子ども向け行事案内リーフレット「おやすみの日は博物館に行こうよ！」

平成28年5月～3月分（A4・田四ツ折、27,000部、平成28年5月発行）

(イ) 広報活動

a. 当館独自の広報

①イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約1,600部）、②新聞広告（岩手日報ぼらん 朝日新聞）、③いわはく子ども新聞（A4、45,000部、平成29年2月発行）、その他各事業別ちらし（随時）等。

b. その他の公所

①教育記者クラブ、②日博協、③全科協、④県観光協会、⑤盛岡観光コンベンション協会 等。

c. 新聞各社への情報

胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等。

d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、游悠、rakra 等。

(ウ) 博物館公式ホームページ及び SNS の運営

岩手県立博物館公式ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。平成 28 年度は、SNS との連携を高めたことや、春休みの特別展示が好評を博したことなどの効果により、トップページの閲覧回数は 75,827 回と前年度より約 8.6%増加した(図)。その他のページでは、博物館の概要、展覧会案内、展示室案内、利用案内の順にページの閲覧回数が多かった。

平成 28 年度末には、英語の案内ページを全面刷新するほか、新規に中国語(大陸・台湾)、韓国語の案内ページを作成し、平成 29 年 4 月に公開した。

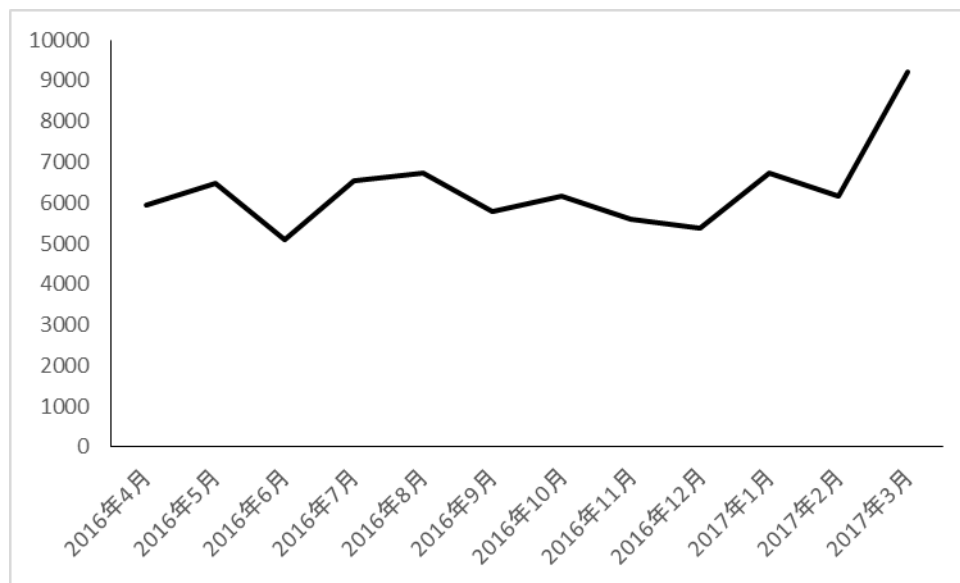


図 トップページの月別閲覧回数(平成 28 年度)

SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。平成 28 年度のツイート回数は 339 回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は約 4,050 人と増加中である。

イ. 情報機器の管理

平成 28 年度は、学芸員室・事務室等に設置しているデスクトップパソコンのリース期限満了に伴い、15 台を更新した。また、展示室に設置しているデジタルサイネージシステムを運用する 8 台のパソコンのハードディスクを更新した。

ウ. 委員会等職員派遣

表(5) - 1 平成28年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	4月14日	岩手県環境生活 部環境保全課	第57回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業環境影響評価書審 査	鈴木まほろ
2	5月13日	岩手県環境生活 部環境保全課	県環境影響評価技術審 査会現地調査	風力発電事業現地調査	鈴木まほろ
3	6月2日	岩手県環境生活 部環境保全課	第58回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業計画環境影響評価 書審査・火力発電所建設事業審査	鈴木まほろ
4	6月3日	県沿岸広域振興 局土木部釜石土 木センター		道路改良事業に関わる希少種現 地調査及び移植	鈴木まほろ
5	7月1日	岩手県環境生活 部環境保全課	県環境影響評価技術審 査会現地調査	風力発電事業現地調査	鈴木まほろ
6	7月1日	盛岡市教育委員 会	第1回盛岡市子ども科 学館協議会		小山内透
7	7月7日	岩手県環境生活 部環境保全課	第59回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業計画環境影響評価 方法書審査	鈴木まほろ
8	7月26日	岩手県環境生活 部環境保全課	第60回県環境影響評 価技術審査会	汚泥再生処理センター建設事業・ 地熱発電所設置計画環境影響評 価方法書審査	鈴木まほろ
9	8月19日	県沿岸広域振興 局保健福祉環境 部大船渡保健福 祉環境センター	希少野生動植物調査検 討委員会	各種事業に関わる希少野生動植 物調査・保全について	鈴木まほろ
10	8月22日	県沿岸振興局農 林部大船渡農林 振興センター		農地復旧事業に関わる希少種現 地調査	鈴木まほろ
11	8月22日	岩手県復興局ま ちづくり再生課	平成28年度第1回高 田松原津波復興祈念公 園震災津波伝承施設検 討委員会	震災津波伝承施設の整備につい て	赤沼英男
12	9月5日	東北森林管理局	平成28年度早池峰山 周辺地域のニホンジカ 生息状況等調査に係る 検討委員会	同左	鈴木まほろ
13	9月12日	岩手県環境生活 部環境保全課	第61回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業計画段階配慮書・環 境影響評価準備書審査	鈴木まほろ
14	9月15日	北上市史編さん 室	北上市史編さん自然部 会	北上市史自然編の編さんについ て	鈴木まほろ
15	9月26日	岩手県高等学校 文化連盟郷土芸 能専門部	岩手県高等学校総合文 化祭郷土芸能発表会審 査員打ち合わせ会	同左	川向富貴子

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
16	9月27日	岩手県環境生活 部自然保護課	県環境審議会自然・鳥 獣部会	野生動物管理計画について	鈴木まほろ
17	10月5日	県沿岸広域振興 局土木部大船渡 土木センター		道路改良事業に関わる現地調査	鈴木まほろ
18	10月15日	岩手県高等学校 文化連盟郷土芸 能専門部	岩手県高等学校総合文 化祭郷土芸能発表会	同左審査	川向富貴子
19	10月17日	陸前高田市教育 委員会	岩手県指定文化財大肝 入吉田家住宅復元検討 委員会	岩手県指定文化財大肝入吉田家 住宅復元計画について	赤沼英男
20	11月8日	岩手県環境生活 部環境保全課	第62回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業環境影響評価準備 所・配慮書審査	鈴木まほろ
21	11月9日	釜石市教育委員 会	平成28年度第2回釜 石市橋野高炉跡史跡整 備検討委員会	釜石市橋野高炉跡史跡の整備に ついて	赤沼英男
22	11月17日	北上市史編さん 室	北上市史編さん自然部 会	北上市史自然編の編さんについ て	鈴木まほろ
23	11月29日	宮古市教育委員 会	第1回宮古市北上山地 民俗資料館運営委員会	同左	川向富貴子
24	12月1日	岩手県環境生活 部環境保全課	第63回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業環境影響評価方法 書審査	鈴木まほろ
25	12月5日	岩手県高等学校 文化連盟郷土芸 能専門部	岩手県高等学校総合文 化祭郷土芸能発表会審 査員打ち合わせ会	同左	川向富貴子
26	12月6日	岩手県高等学校 教育研究会理科 部会	第63回岩手県高等学校 理科研究発表会並びに第 39回岩手県高等学校総合 文化祭自然科学部門研究 発表会	事前審査	渡辺修二
27	12月13日	岩手県高等学校 教育研究会理科 部会	第63回岩手県高等学校 理科研究発表会並びに第 39回岩手県高等学校総合 文化祭自然科学部門研究 発表会	審査	渡辺修二
28	1月19日	岩手県環境生活 部環境保全課	第64回県環境影響評 価技術審査会	風力発電事業環境影響評価方法 書審査	鈴木まほろ
29	1月27日	県沿岸広域振興 局保健福祉環境 部大船渡保健福 祉環境センター	希少野生動植物調査検 討委員会	同左	鈴木まほろ

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
30	1月30日	釜石市教育委員会	平成28年度第3回釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	釜石市橋野高炉跡史跡の整備について	赤沼英男
31	1月31日	東北森林管理局	平成28年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会	同左	鈴木まほろ
32	2月7日	県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター		河川改良事業に関わる希少種現地調査	鈴木まほろ
33	2月9日	岩手県環境生活部環境保全課	第65回県環境影響評価技術審査会	風力発電事業計画段階環境配慮書審査	鈴木まほろ
34	2月9日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左	鈴木まほろ
35	2月14日	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
36	2月20日	岩手県環境生活部環境保全課	第66回県環境影響評価技術審査会	風力発電事業計画段階環境配慮書・環境影響評価方法書審査	鈴木まほろ
37	2月21日	岩手県復興局まちづくり再生課	平成28年度第2回高田松原津波復興記念公園震災津波伝承施設検討委員会	震災津波伝承施設の基本設計について	赤沼英男
38	3月3日	岩手県環境生活部自然保護課	県希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
39	3月23日	岩手県環境生活部環境保全課	第67回県環境影響評価技術審査会	風力発電事業計画段階環境配慮書審査	鈴木まほろ
40	3月24日	盛岡市教育委員会	第2回盛岡市子ども科学館協議会		小山内透

エ. 外部助成

○研究助成 平成28年度は、活動助成として1件の採択があった。

表(3)－4 平成28年度助成採択状況

	氏名	部門	テーマ名	助成の名称	申請先
1	鈴木まほろ	生物	市民調査による岩手県の植物相の研究	富士フィルム・グリーンファンダ活動助成	公益信託 富士フィルム・グリーンファンダ

6. 文化財レスキュー活動

(1) はじめに

2011(平成 23)年 3 月 11 日に発災した東日本大震災で、岩手県太平洋沿岸部に立地する博物館関係施設をはじめ、図書館、学校、宗教法人及び個人等が所蔵する膨大な数の文化財、自然史標本等が被災した。文化財保護法制定以後最大規模の自然災害発生を受け、岩手県立博物館（以下、当館という。）では、2011 年 4 月 2 日から今日まで、被災資料の救出と再生に取り組んできた。

救出された資料には多量の塩分をはじめ、津波によってもたらされた様々な物質が固着している。それらを長期にわたり安定的に保管するためには、大津波がもたらした有害な物質を除去し、資料の劣化進行を防止するための安定化処理が不可欠である。当館では、国公立の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら、救出された古文書、民具、自然史標本等に対する安定化処理方法を構築し、その再生を図ってきた。平成 28 年 3 月末現在、20 万点を超える資料の再生を果たしてきたが、それでも未だ 34 万点強の資料が救出されたままの状態でも保管され、再生の時を待っている。その中には、新たな方法を構築し、対処しなければならない資料も相当数含まれている。津波で被災した文化財を再生させるうえで不可欠な安定化処理方法については、国内はもとより国際的にも未確立で、安定化処理を施した資料について当分の間、状態変化の有無を注意深く観察しなければならない。このように、当館では、全国の専門機関と連携し、処理と並行し様々な試験研究を行いながら、被災資料の再生を進めている。以下に、平成 28 年度の取組状況について報告する。

(2) 安定化処理の現状

当館では平成 23 年 4 月 5 日、救出された古文書や書籍の安定化処理に着手した。試行錯誤を重ねながら安定化処理方法を構築し、必要に応じ改良を加えながら、処理を進めてきた。既述のとおり、大津波で被災した資料を再生するためには、資料の劣化要因、展示・収蔵施設の環境汚染につながる様々な要因を可能な限り取り除き、救出した資料を長期にわたり安定的に保管する状況を確立する必要がある。そのため救出した資料に対し、除菌、除泥、脱塩を施してきた。最近の経過観察によって、一連の措置を施した資料の中に変色や異臭が発生するという現象が確認されるようになった。東京文化財研究所と連携して調査したところ、一連の現象は魚の油脂等に起因する可能性の高いことがわかった。そこで平成 28 年度、これまでの処理工程に、新たに脱油を加えた処理工程を構築し、安定化処理を行っている。

民具や考古資料等、紙を素材とする文化財（以下、紙製文化財という。）とは素材や形態が異なる文化財については、紙製文化財に対して構築された方法を、それぞれの素材や形態に適した方法に改めながら、その再生を図ってきた。自然史標本については、全国の研究者が連携し、標本の種類に適した措置方法を構築して、安定化処理及び修理が施されてきた。

膨大な資料の処理を効率的に進めるためには専用の作業場所が不可欠である。当館では、紙製文化財の措置を主体とする仮設修復施設（修復館）を本館に併設し、平成 26 年 5 月からそこで安定化処理及び修理を実施してきた。被災資料再生に対する一般の理解を得るため、修復館では来館者に公開しながら作業を進めている。修復館における処理と並行し本館では、陸前高田市立博物館が所蔵していた登録有形民俗文化財『陸前高田の漁撈用具』、植物標本、昆虫標本の安定化処理及び修理が行われてきた。平成 28 年度には、新たに土製文化財の安定化処理が加わった。

民具の処理では、煤や油分等、それらが実際に使用されていた状況を示す様々な使用痕を残しつつ、一連の措置を進める必要がある。現在、水洗可能で、長時間水に浸しても溶損の心配がない資料を選別し、処理を施しているが、その過程で使用痕が失われる心配がある。そこで、浸漬中、資料の状態を注意深く観察しながら、その喪失防止を図っている。救出された民具の多くは木材を素材としている。樹種はもとより、木取りされた部位も様々である。このような資料を水漬けした場合、浸漬後の乾燥過程で木材に亀裂や変形が生じる可能性がある。この

問題を回避するため、当館ではあらかじめ石膏で資料を保護し、水漬け、乾燥を行うなどして、変形や亀裂の発生を防いでいる。

植物標本については、スタキボトリス属菌等人体にきわめて有害なカビが発生している疑いがある資料を対象に、培養試験を行いながら、慎重に作業が進められた。並行して、冷凍庫に保管されてきた学術資料の除泥及び整理、安定化処理が完了した標本のデータベース化と分別整理が行われた。昆虫標本については年次計画に基づいて安定化処理及びデータベース化が実施された。平成28年度の安定化処理、修理、データベース化及び分別整理状況は表1に、平成23年度～平成28年度までの被災文化財救援活動の推移は図1に示すとおりである。

救援活動のあゆみ

(2017年3月末現在)

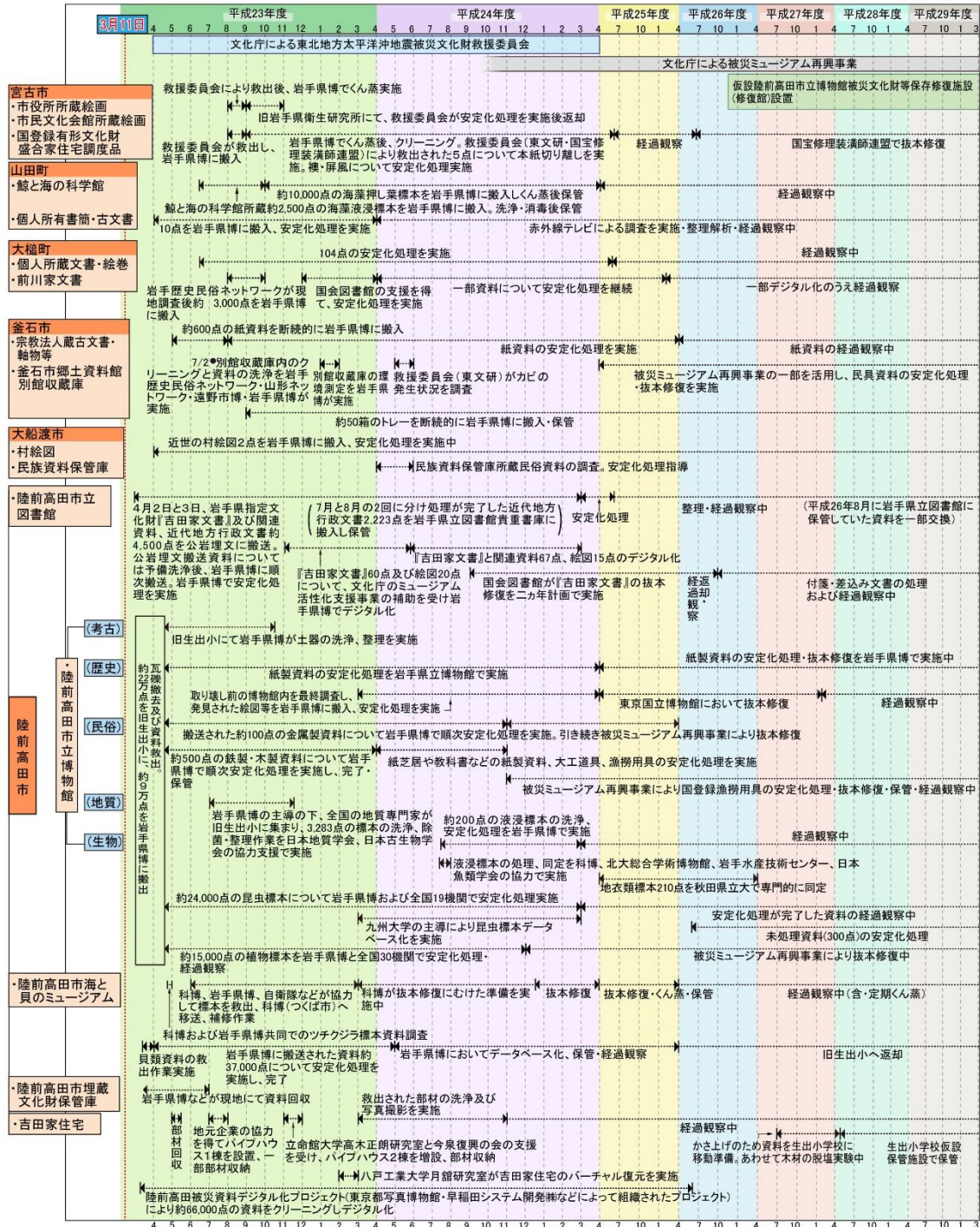


図1 岩手県立博物館が実施した岩手県沿岸部に所在する被災博物館および関連施設の救援活動状況
 機関名略称: 東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会=救援委員会、北海道大学総合学術博物館=北大総合学術博物館、国立国会図書館=国会図書館、国立科学博物館=科博、岩手県立博物館=岩手県博、旧陸前高田市立生出小学校=旧生出小(仮設陸前高田市立博物館)、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター=公岩埋文

No.	実施内容	安定化処理・ 修理（点）	データ ベース化	分別整理
1	陸前高田市立博物館所蔵被災紙製資料の安定化処理及び修理業務	3,975	-	-
2	陸前高田市立博物館所蔵被災民俗資料修理業務	151	-	-
3	陸前高田市立博物館所蔵被災鳥羽源蔵コレクション安定化処理及び修理業務	1,450	-	-
4	陸前高田市立博物館所蔵被災土器・土製文化財安定化処理業務	12	-	-
5	陸前高田市立博物館所蔵被災昆虫標本修理業務	250	250	250
6	陸前高田市立博物館所蔵被災押し葉標本修理業務	400	400	400

（3）処理が終了した資料の経過観察

様々な劣化要因を想定し安定化処理方法を構築し、処理を施したとはいうものの、当初予期せぬ現象が生じ、資料の状態が変化する可能性がある。発生を未然に防止するため、当館では安定化処理が完了した資料を定期的に確認する、経過観察を実施している。安定化処理終了後約2ケ年は特段の変化がみられなかったが、概ね3年が経過した古文書や書籍に、異臭（腐敗臭）が発生する、紙面が黄褐色に変化する、といった異常が確認されるようになった。

上記現象に対し適切な措置を講じるためには、原因の特定が急務である。そこで、東京文化財研究所と連携し、発生原因を究明するための調査が平成27年度に引き続き行われ、魚類に起因する油脂が分解し発生する酸性物質（低級カルボン酸）に起因する可能性が高いことがわかった。これまでの安定化処理方法は、水洗や水道水への浸漬を基軸にしていたが、油脂の除去という新たな課題を解決するため、中性洗剤による洗浄工程を加えた（写真2）。目下のところ、この追加措置によって異臭の発生は治まり、措置資料にも特段の変化はみられず、良好に推移している。経過観察によって明らかとなった異臭の発生と変色については、今後も様々な角度からその原因を検討する予定である。



写真1 安定化処理が完了した紙製文化財の経過観察



写真2 新たに加えた中性洗剤による洗浄工程

（4）確立した安定化処理技術の共有

ア. 今後も連綿と続く被災文化財再生の取り組み状況を多くの方々に理解していただく、イ. 多くの専門機関の連携によって構築された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、その普及を図る、ウ. 今後も発生が懸念される大規模自然災害に備える、の3点、すなわち「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への対応」を主な活動目的に掲げ、平成26年度、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」（会長 岩手県立博物館長）を結成し、文化庁が準備した「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受けて、活動を続けてきた。平成28年度は、全国の方々の被災文化財再生の現状と課題に対する理解を一層深めていただくことを目的として、山梨県立博物館、昭和女子大学光葉博物館でそれぞれ特別展、「よみがえる、ふるさとの宝たち—3.11被災資料の再生—」（平成28年6月4日～7月4日）（写真3）、「東日本大震災の復興支援活動」（平成28年6月6日～7月2日）が開催された。



写真3 『安定化处理』をテーマとする企画展の開催（山梨県立博物館提供）

博物館、大学関係者等への技術普及を図るため、平成28年6月12日に山梨県立博物館、平成29年1月20日に八重山博物館、平成29年2月2日に東京藝術大学で、「被災紙製文化財の安定化处理」、「被災民具の安定化处理」、「被災植物標本の安定化处理」、「被災絵画の安定化处理」をテーマとするワークショップを実施した。ワークショップでは実習の前に、被災文化財等の救出から再生に至るまでの状況と今後の課題について講義を行い、円滑な救出を図る上での留意点や安定化处理を円滑に進めるうえで準備すべき事項等をわかり易く解説した。いずれの会場でも参加者は被災資料の再生方法を熱心に実習し、被災地における博物館資料再生の重要性と再生を果たすうえでの様々な課題や、今後の博物館活動に役立ていくうえでの留意点等に対する理解を深めた。

全国の博物館関係者への技術普及を図る一方、被災地における取り組みを一層支援するため、平成28年8月1日～2日に仮設陸前高田市立博物館でワークショップを実施し（写真4）、今後の再生を図る上で必要な新しい安定化处理技術を提供した。また、11月26日～12月5日には陸前高田市コミュニティーホールで特別展「ずっとずっと ふるさと陸前高田一心に生きるたからものー」を、11月27日には同ホール講堂で「よみがえる文化財と博物館の復興」をテーマにしたシンポジウム（写真5）を開催した。一連の事業を通じ、発災から今日まで全国の支援を得て実施してきた被災文化財等の再生の歩みを陸前高田市民に伝えると共に、郷土の文化財を守ることの重要性とその活用を図る上で不可欠な新しい博物館建設への意識高揚を高めることができたものと思われる。

（5）次年度以降の課題

陸前高田市に限っても未だ約29万強の資料が救出されたままの状態では保管されている。その中には、水洗不能なため、新たな安定化处理方法を構築して対処しなければならない資料も相当数含まれている。岩手県立博物館ではこれまでの専門機関の連携を一層強化し、大津波プロジェクトとも連携を図りながら、残された資料の再生を図ると共に、被災地における博物館機能再生への支援、そして新たな大規模自然災害への対応を視野に入れた様々な活動に取り組むことにしている。皆様にはこれまでと同様のご支援をお願いしたい。



写真4 仮設陸前高田市立博物館で開催されたワークショップ（陸前高田市立博物館提供）



写真5 陸前高田市コミュニティーホールで開催されたシンポジウム（陸前高田市立博物館提供）

7. 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。現地見学会は昨年の「いにしへの都に学ぶ」が好評であり、再び奈良に、という声に答え「いにしへの都・奈良に学ぶⅡ」を企画、参加者14名であった。また、被災文化財レスキュー活動に数名の会員の方がボランティアとして従事している。高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

平成28年度 359件 574人
一般会員 207人（平成27年度 221人）
家族会員 105件・320人（平成27年度 109件・347人）
小中高会員 0人（平成27年度 0人）
終身会員 23人（平成27年度 25人）
賛助会員 18件・30口（平成27年度 16件・29口）
団体会員 6件（平成27年度 5件）

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

(ア) 「いにしへの都・奈良に学ぶⅡ」奈良県

10月25日（火）～10月27日（木）参加者 14人

イ. 自然観察会

(ア) 第71回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「和賀仙人の森の巨人に会いに行こう」

5月22日（日）参加者 26人

講師 岩手県立博物館専門学芸員 鈴木 まほろ氏

(イ) 第72回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「夏山で生き物探し」 盛岡市外山森林公園

7月24日（日）参加者 27人

講師 元県農業試験場研究員 千葉武勝氏

(ウ) 第71回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「釜石鉱山跡をさぐる」

7月3日（日）参加者 20人

講師 釜石鉱山(株)代表取締役社長 山澤茂行氏

(エ) 第72回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「デボン紀の植物化石採集」

一関市 東山町

10月23日(日) 参加者32人

講師 宮城教育大学教授 川村寿郎氏

ウ. 話のサロン (講演会)

(ア) 第1回 「還元を担う生き物・キノコ～ヒダのあるキノコ (ハラタケ類) の分類」

講師 日本菌学会東北支部副会長

岩手菌類研究同好会会長 吉田 勝治氏

5月14日 参加者 13人

(イ) 第2回 「洞穴に生きる虫たち」 (県博日曜講座)

講師 岩手県立博物館学芸調査員 渡辺 修二氏

8月14日(日) 参加者10人

(ウ) 第3回 「海を渡った鉄—蕨手刀・鉄鍋・南部鉄—」 (県博日曜講座)

講師 岩手県立博物館首席専門学芸員 赤沼 英男氏

10月23日(日) 参加者23人

(エ) 第4回 「花巻人形の世界」

講師 花巻市博物館館長 高橋 信雄氏

博物館教室 29年2月19日(日) 参加者28人

エ. 会報発行等

(ア) 「友の会会報」発行 (A4版8頁、500部)

4回 (No104～107) 発行 (4, 7, 10, 2の各月)

(イ) 「友の会通信」発行 (A4版両面刷り2頁、500部)

4回 (No109～112) 発行 (6, 9, 12, 3の各月)

(ウ) 「岩手県立博物館だより」発送

年4回発送 (No149～152) (6, 9, 12, 3の各月)

(エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送

年2回 (4, 9各月)

(オ) 県博の行事等の案内、要項を年9回開催の友の会企画委員会で随時発送。

(カ) ボランティア活動

「文化財レスキュー」被災標本・古文書などのレスキュー ボランティア募集したところ会員数名が、現在被災標本のカビ等を洗浄・除去、乾燥・整理などの活動に従事している。

オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの昔遊びでは企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。

8. 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館 日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,287	836	14,858	40,981	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
総計	1,792,296	196,056	824,810	2,813,162	10,899	-
平均	48,440	5,299	22,292	76,031	295	267

平成28年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	1,621	169	735	2,525	26	97
5	2,615	150	1,149	3,914	27	145
6	1,573	77	1,011	2,661	26	102
7	2,271	253	1,449	3,973	27	147
8	2,521	153	1,669	4,343	29	150
9	1,392	64	1,371	2,827	17	166
10	3,892	187	2,698	6,777	27	251
11	2,471	56	1,272	3,799	26	146
12	1,473	45	908	2,426	24	101
1	1,259	48	754	2,061	24	86
2	1,714	65	880	2,659	24	111
3	3,818	150	3,035	7,003	27	259
計	26,620	1,417	16,931	44,968	304	147

開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,317	511	6,928	21,756	1,822	71	320	2,213	9,148	254	7,610	17,012
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
総計	1,052,210	54,628	294,259	1,401,097	438,072	15,813	38,666	492,551	302,014	125,615	491,885	919,514
平均	28,438	1,476	7,953	37,867	11,840	427	1,045	13,312	8,163	3,395	13,294	24,852

平成28年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	1,148	20	628	1,796	72	149	0	221	401	0	107	508
5	1,848	72	885	2,805	2	43	0	45	765	35	264	1,064
6	1,083	76	525	1,684	46	0	0	46	444	1	486	931
7	1,558	88	903	2,549	134	0	122	256	579	165	424	1,168
8	2,025	97	1,319	3,441	58	0	0	58	438	56	350	844
9	803	39	423	1,265	169	0	0	169	420	25	948	1,393
10	1,973	44	1,385	3,402	144	0	5	149	1,775	143	1,308	3,226
11	1,364	52	563	1,979	224	0	1	225	883	4	708	1,595
12	691	36	476	1,203	94	0	0	94	688	9	432	1,129
1	862	45	555	1,462	0	0	0	0	397	3	199	599
2	1,166	34	702	1,902	24	0	0	24	524	31	178	733
3	3,182	84	2,610	5,876	0	0	0	0	636	66	425	1,127
計	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317

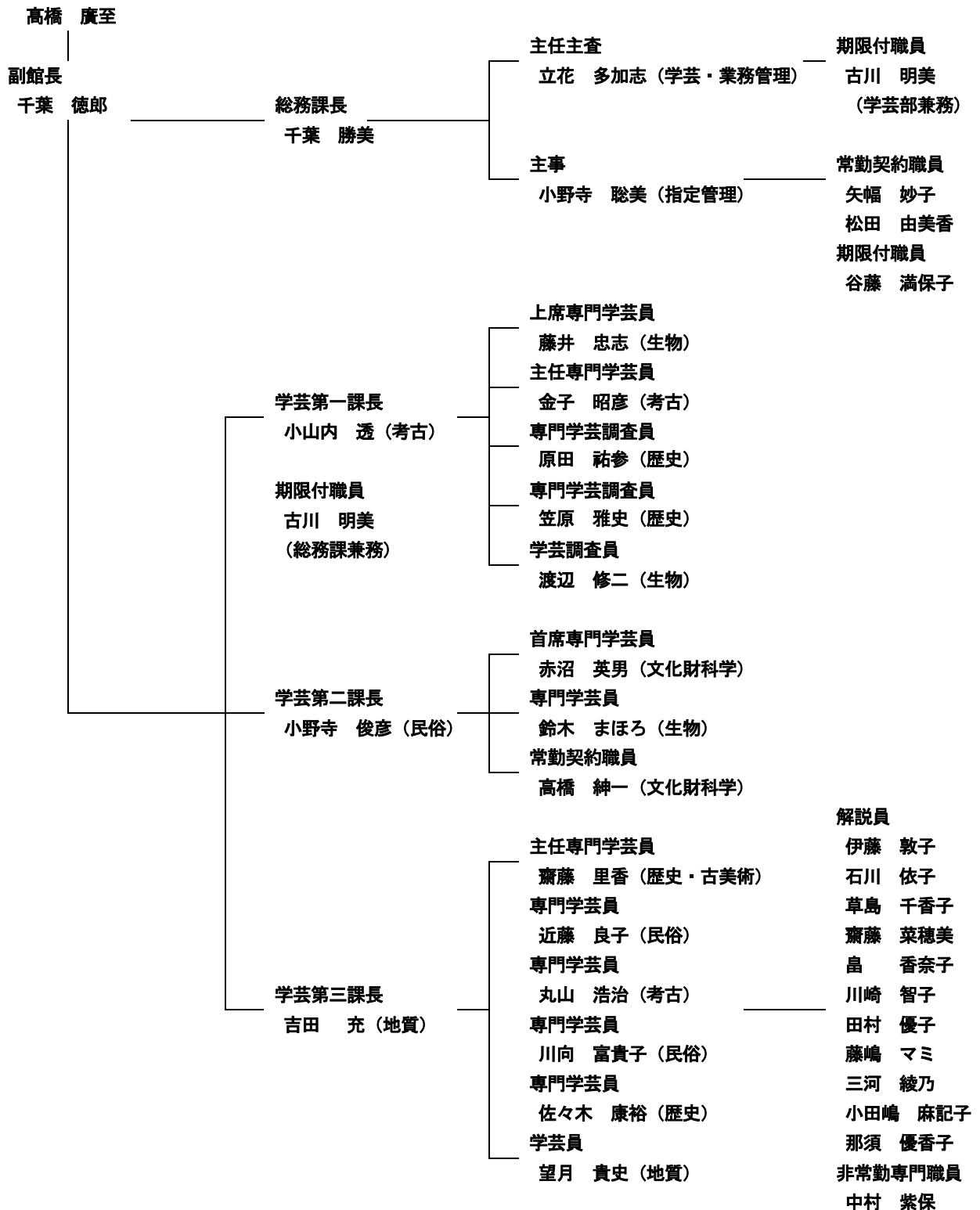
教育普及事業参加人数 22,836人

移動展入館者数 657人

平成28年度総利用者数 68,461人

9. 平成 28 年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織

館長（県立博物館館長兼任）



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史	民俗	生物	古美術	文化財科学	計
2人	3人	4人	3人	3人	(1)人	2人	17 (1)人

10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

1 1. 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和55年7月15日条例第41号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第1条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第1条の3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第2条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

第3条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第3項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第3項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第4条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第2条第1項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第3項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者(以下「入館者」という。)は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	310円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額(以下「特別入館料」という。)を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料(特別入館料を除く。)は、無料とする。

(2) 博物館条例施行規則

昭和55年9月26日

規則第78号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館条例(昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。)の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則(昭和55年岩手県教育委員会規則第9号)第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第7条の規則で定める者)

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

(1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者(知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児)及びその介護を行う者

(2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者(知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児)と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者

(3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者
(入館料の免除及び還付)

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、別に定める様式による入館料免除(還付)申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除(還付)申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めたときは、別に定める様式による入館料免除(還付)承認書を申請者に交付するものとする。

附 則(平成21年3月13日規則第7号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則(以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

(3) 岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日
教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手県立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日)
- (2) 資料整理日(資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。)
- (3) 12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例(昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。)第1条の2に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)は、必要があると認めるときは、博物館の館長(以下「博物館長」という。)の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

(入館許可の申請)

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

(撮影、貸出等の許可)

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可(変

更) 申請書又は別に定める様式による資料貸出許可(変更)申請書を博物館長に提出しなければならない。

- 2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。
- 3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。
- 4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損(損傷、亡失)報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

(汚損等の届出)

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

- 2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

(協議会の所掌)

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- (1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。
- (2) 資料の調査研究、利用等に関すること。
- (3) その他博物館の運営に関すること。

(会長)

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則 (平成21年3月6日教育委員会規則第2号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続きに関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則(以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

平成 28 年度岩手県立博物館年報

平成 29 年 5 月 1 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235